

平成8年度 家庭教育充実事業報告書

福岡県における小学生をもつ父親・母親の
養育態度・行動の実態調査に関するまとめ

福岡県立社会教育総合センター

はじめに

家庭は、子どもにとって生活の中心的な場であり、親の影響を受けながら基本的な生活習慣や社会性を身につけるなど、子どもの人間形成の場として重要な役割を担っていることはいふまでもありません。

ところが、現代社会の急激な変化は、家庭を取り巻く環境や生活をも変化させ、核家族化・少子化が進行する中で、子育てに不安を持つ親を増加させるとともに、家庭の教育力の低下の一因ともなっています。また、いわゆる「いじめ」問題は家庭教育に大きく関わっているとの指摘もあります。

こうした状況のなかで、次代を担う子どものすこやかな成長と健全な育成を図るためには、家庭の教育機能の回復が極めて重要な課題であります。

そこで、福岡県立社会教育総合センターでは、子どもの健全な成長を促す家庭教育の充実を図るために、「家庭教育充実事業」として、乳幼児を持つ親等を対象とした育児のための啓発冊子の作成・配布をはじめ、子育ての悩みに応える相談事業、学習機会の提供、テレビ放送による子育て番組「子育てひろば」の放映等、各種の関連事業を実施してまいりました。

本年度は、小学生をもつ保護者を対象に「小学生をもつ父親・母親の養育態度・意識の実態」を調査し、昭和55年度及び平成3年度に実施しました「小学生をもつ保護者のしつけに関するアンケート調査」と比較しながら、家庭教育指導資料（本報告書）としてまとめました。

この報告書を、市町村教育委員会関係者や関係機関・団体において家庭教育関係事業等の参考資料として活用いただければ幸いです。

最後に、本事業を実施するにあたり、御尽力いただきました企画推進委員及び各部会委員の諸先生方、並びに関係の方々から心からお礼申し上げます。

平成9年3月

福岡県立社会教育総合センター
所長 森本精造

も く じ

はじめに

家庭教育充実事業概要

I 平成8年度開設要綱	1
II 平成8年度企画推進委員・部会委員	2
III 事業の展開	3
1. 企画推進委員会・部会の開催	3
2. パンフレット等の作成・配布	3
3. テレビ放送	3
4. 家庭教育指導資料の作成・配布	6
5. 家庭教育指導者研究協議会	6
6. 電話相談員の養成・研修	9
7. 電話による相談事業	11

福岡県における小学生を持つ親の養育態度・行動についての実態調査に関するまとめ

第1章 調査の概要	13
1. 調査の目的	13
2. 調査の方法：対象・方法・時期	13
3. 分析の基本的視点	15
第2章 親の養育態度	16
1. 基本的生活習慣	16
(1) 起床の世話	16
(2) 持ち物の注意	16
(3) 着替えの用意	17
(4) 部屋などの整理	17
(5) その他	17
2. 遊 び	18
(1) 遊 び 方	18
(2) 遊び相手	18
(3) テレビの内容	18
(4) 宿題・手伝い忘れ	19
3. 勉 強	19
(1) 勉強に対する注意	19
(2) 勉強を見てやる	20

(3) 塾へやる	20
4. 金銭感覚	20
(1) お金の与え方	20
(2) お金の使い方	21
(3) 物の買い与え	21
5. 社会性	21
(1) 挨拶	21
(2) 言葉づかい	21
(3) 友達	21
(4) 手伝い	22
(5) 共同で家事	22
(6) ニュース解説	22
第3章 親の養育学習と自己評価	23
1. 学び合い	23
(1) 学校が主催する会合への出席	23
(2) 地域行事や活動への参加	23
(3) しつけについての学習	23
2. しつけの自己評価	24
(1) しつけの自信	24
(2) 子どもの身の回りの世話	24
(3) しつけの甘さ	25
(4) 良いモデル	25
第4章 養育意識	26
1. しつけの目標	26
(1) 親が描く子ども像	26
(2) 他の子どもとの比較	26
(3) 男女の区別	27
2. 育ちの意識	27
(1) 子どもをほめる	27
(2) しつけの重点	28
第5章 結論と今後の課題	29
資料編『平成8年度 家庭教育充実事業指導資料作成に関わる調査実施要項』	
『データ集』	

家庭教育充實事業概要

I 平成8年度開設要綱

1. 事業の趣旨

家庭の教育機能を高めるため、子どもを持つ親等を対象に家庭教育に関する情報や資料の提供、電話相談等の相談体制の整備、家庭教育指導者の資質の向上を図り、生涯学習の基礎となる家庭教育の充実振興に努める。

2. 事業の対象

事業の対象者は、乳幼児期から少年期（小・中学生）までの子どもを持つ親等とする。

3. 企画推進委員会・部会

- (1) 本事業全般の企画運営の充実を図るため、家庭教育に関する学識経験者（教育学、心理学、社会学、医学等の専門分野）、社会教育関係者、保育・学校教育関係者、マスコミ関係者、関係行政担当者等幅広い分野から委員を選出し、企画推進委員会及び部会を設置する。
- (2) 企画推進委員会・部会は、事業の基本方針と実施要項を策定し、その運営について審議するとともに、事業の成果を評価する。
- (3) 企画推進委員会に、委員長・副委員長各1名を置く。
- (4) 企画推進委員会は、年3回程度開催する。
- (5) 部会は、パンフレット等作成部会・テレビ放送部会・指導資料作成部会の3部会とする。
- (6) 各部会に、部会長・副部会長各1名を置く。
- (7) 各部会は、それぞれ年4回程度開催する。

4. 事業の内容

- (1) 家庭教育指導者研究協議会の開催
社会教育・学校教育関係者及び社会教育関係団体のリーダーや地域における家庭教育の指導的立場にある者等を対象に、各地域の実情を踏まえながら、今日の家庭教育の課題に対処する具体的実践方策等について研究協議を行うとともに、家庭教育指導者の資質の向上を図る。
- (2) 家庭教育指導資料等の作成・配布
家庭教育の活性化に資するために家庭教育に関する各種の調査研究等を行い、その研究の成果をまとめた指導資料等を作成して、関係機関・団体に配布する。
- (3) パンフレット等の作成・配布
家庭教育に関する冊子を作成し、親や関係機関・団体に配布することにより、家庭教育に関する普及・啓発活動を推進する。
- (4) 電話による相談事業
学識経験者や電話相談員養成講座・研修会修了者等を相談員に委嘱し、家庭教育に関する親等からの相談（子育てに関する悩み等）に応ずる。

(5) 電話相談員の養成・研修

電話相談に係わる職員の資質の向上を図るとともに、電話相談員の養成確保に努めるため、家庭教育に関する専門知識やカウンセリングに関する知識・技術等を修得するための養成講座・研修会を実施する。

(6) テレビ放送

電話相談等における相談内容を踏まえ、家庭教育の課題に応えるような番組を制作し、提供する。

II 平成8年度企画推進委員・部会委員

企画推進委員

氏名	所属・職名	備考
光安文夫	福岡教育大学 名誉教授	委員長
森 紘	九州大学 助教授	副委員長
田中敏明	福岡教育大学 教授	
矢野静枝	元北九州市立保育所 所長	
川原弘之	福岡県立大学 教授	
浅田奈緒美	RKB毎日放送 報道制作局アナウンス部副部長	
正平辰男	福岡県教育庁社会教育課 主任社会教育主事	

部会委員

部会	氏名	所属・職名	備考
パ等 ン作 フ成 レ部 ット 会	田中敏明	福岡教育大学 教授	部会長 副部会長
	矢野静枝	元北九州市立保育所 所長	
	田中 一	福岡県小児科医会 会長	
	桑田和子	福岡県教育庁義務教育課 指導主事	
テレ ビ放 送部 会	川原弘之	福岡県立大学 教授	部会長 副部会長
	浅田奈緒美	RKB毎日放送 報道制作局アナウンス部副部長	
	徳安 敦	第一保育短期大学 助教授	
	天野恭子	福岡市立和白幼稚園 園長	
指 導資 料作 成部 会	森 紘	九州大学 助教授	部会長 副部会長
	正平辰男	福岡県教育庁社会教育課 主任社会教育主事	
	井上豊久	福岡教育大学 助教授	
	山田雅明	福岡県教育センター 研究主事	
	山崎隆生	福岡県教育庁筑豊教育事務所社会教育主事	

III 事業の展開

1. 企画推進委員会・部会の開催

(1) 実施状況

第1回企画推進委員会	6月24日(月)
・委員長・副委員長選出	
・平成8年度事業内容並びに各部会の事業についての審議	
第1回パンフレット等作成部会	7月10日(水)
第1回指導資料作成部会	7月11日(木)
第1回テレビ放送部会	7月12日(金)
第2回テレビ放送部会	7月29日(月)
第2回パンフレット等作成部会	7月30日(火)
第2回指導資料作成部会	7月31日(水)
第3回パンフレット等作成部会	9月3日(火)
第3回指導資料作成部会	9月26日(木)
第4回指導資料作成部会	11月27日(水)
第5回指導資料作成部会	12月25日(水)
第6回指導資料作成部会	2月5日(水)
第7回指導資料作成部会	2月24日(月)
第4回パンフレット等作成部会	3月14日(金)
第2回企画推進委員会	3月24日(月)
・本年度事業の評価・反省並びに来年度事業の取組みについての審議	
事業実施報告書の作成	3月

2. パンフレット等の作成・配布

育児のための小冊子「いたずらざかり」「わんぱくざかり」の作成

- ・「いたずらざかり」(B6版64ページ)、乳幼児(0～2歳)対象に市町村母子保健主管課・医師会を通して母子手帳交付の際配布。
- ・「わんぱくざかり」(B6版64ページ)、幼児(3～6歳)対象に保健所・医師会を通して3歳児健診の際配布。また県内の保育園・幼稚園に希望数調査をし配布。

3. テレビ放送

(1) 番組企画

ア 番組名	子育て相談「子育てひろば」
イ 放送時間	毎週土曜日 午前6時45分から7時00分まで
ウ 放送期間	平成8年10月5日から平成9年3月29日まで
エ 放送の条件	15分、24回放送
オ 放送の形式	スタジオ構成及びVTR・ENG構成の併用
カ 番組の広報	番組案内ポスター・チラシ等で広報
キ 制作と放送	RKB毎日放送に委託

(2) 番組の内容

回	放送日	テ ー マ	内 容	出 演 者
1	10/5	どんな子どもに育てたいですか	最初の赤ちゃんに接する場面を紹介し、乳幼児教育の大切さを考える	第一保育短期大学助教授 徳 安 敦
2	12	育児はお父さん・お母さんの共同作業	お父さんの育児への参加と家庭での役割について考える	第一保育短期大学助教授 徳 安 敦
3	19	自立の重要性	乳幼児期のしつけの重要性と、ほめ方・叱り方のポイントについて考える	第一保育短期大学助教授 徳 安 敦
4	26	心地よい生活のリズムⅠ	子どもの生活のリズムとしての基本的な生活習慣を考える	福岡教育大学教授 田 中 敏 明
5	11/2	心地よい生活のリズムⅡ	子どもの生活のリズムとしての基本的な生活習慣を考える	福岡教育大学教授 田 中 敏 明
6	9	食べ物好き嫌い	乳幼児期の食生活のあり方について考える	福岡県立大学教授 小 松 啓 子
7	16	楽しい遊び	子どもの生活そのものである「遊び」について考える	第一保育短期大学助教授 瀧 信 子
8	23	大切な健診	乳幼児期に行われる健診の意義と内容について考える	財津小児科医院長 財 津 正 博
9	30	予防接種	予防接種の意味と必要性について理解を深める	古川小児科医院長 古 川 洸
10	12/7	感染症	食中毒・突発性発疹などの感染症について理解を深める	亀崎小児科医院長 亀 崎 健 治
11	14	アトピー	アレルギー性疾患の中からアトピー性皮膚炎や喘息について考える	南福岡病院医師 柴 田 留 美 子
12	21	自然とのふれあい	子どもの、自然や動植物とのふれあいを通じて、豊かな心や人間性を考える	宮野野外教育研究所長 宮 野 繁 美
12	1/11	心を描く	子どもの感動を表現する喜びの体験の大切さを考える	福岡教育大学附属幼稚園教諭 前 田 志 津 子
14	18	登園拒否	登園拒否について、子どもの心のケアや家族の話し合いの大切さを考える	福岡県立大学教授 杉 田 峰 康

回	放送日	テ ー マ	内 容	出 演 者
15	25	家族とのコミュニケーション	コミュニケーションがつくる家族の和や、子どもの自発性について考える	福岡教育大学教授 亀 口 憲 治
16	2 / 1	いじめを考える	いじめとは（メカニズム・原因分析）	福岡教育大学教授 横 山 正 幸
17	8	いじめ ～親の養育態度～	いじめっ子、いじめられっ子にならないための親の養育態度を考える	福岡教育大学教授 横 山 正 幸
18	15	いじめ ～親の対応～	いじめに直面した時の親の対応について考える	ヤングテレホン北九州相談員 外 松 太 恵 子
19	22	通学合宿～玄海町の取組み～	子どもたちを合宿させ、生活体験をさせながら学校へ通学する玄海町の取組みを見る	玄海町教育委員会
20	3 / 1	子育てサポーター	保育所、保育サービス、子育て支援等働くお母さんへのサポートを考える。	子連れてCHA-CHA-CHA編集長 浜 砂 圭 子
21	8	友だちづくり	友だちづくりの意義と親自身の仲間づくりについて考える	中村学園大学助教授 安 部 恒 久
22	15	お隣の国では	国際理解教育の立場から外国の子育てをのぞいて違いや類似を考える	スーザン・ワイコフ
23	22	今が大切～障害児教育の理解～	交流教室の様子などを紹介しながら障害児への理解を深める	福岡教育大学教授 昇 地 勝 人
24	29	子育てが難しい時代といわれていますが	本年度、県で行った親の養育態度についてのアンケート調査をもとに家庭教育を考える。	九州大学助教授 森 絃

(3) テレビモニターの委嘱

ア 趣 旨

家庭教育充実事業に係わるテレビ放送「子育てひろば」の効果的な運営を図るため、広く県民からモニターを公募して意見を聴取するとともに、家庭教育に関する学習グループの育成に努める。

イ 募集方法

一般公募

ウ 対 象

個人またはグループ（3人程度）の小学生までの子どもを持つ親等

エ 委嘱の期間

平成8年10月1日から平成9年3月31日までの6か月間

オ 内 容

(ア) テレビ放送「子育てひろば」（RKB毎日放送）を視聴してその内容についての

- モニター報告書を月ごとに作成し、福岡県立社会教育総合センターに提出する。
- (イ) 毎月のモニター報告書の郵便料金は、福岡県立社会教育総合センターで負担する。
 - (ウ) モニターは、家庭教育関係事業に積極的に参加し、地域における家庭教育の啓発・普及に努める。

カ 委嘱の状況

- (ア) グループモニター
3グループ 16名に委嘱
- (イ) 個人モニター
34名に委嘱

4. 家庭教育指導資料の作成・配布

家庭教育活性化のために「福岡県における小学生を持つ親の養育態度・行動の実態」について、県下19小学校の親を対象にアンケート調査を実施した。それを昭和55年度・平成3年度に実施した小学生をもつ親対象の調査と比較検討するとともに、分析結果を加え、家庭教育指導資料（本報告書）として作成し関係機関・団体に配布。

5. 家庭教育指導者研究協議会

(1) 家庭教育セミナー「いじめ問題シンポジウム」

ア 趣 旨

家庭教育の今日的課題に対処する具体的実践方策等について研究協議を行い、家庭教育指導者の資質の向上を図る。

イ 主 催

福岡県教育委員会

ウ 主 管

福岡県教育庁福岡教育事務所
福岡県立社会教育総合センター

エ 期日及び会場

平成8年9月14日（土）
宗像市中央公民館

オ 対 象 者

- ・市町村教育委員会社会教育主事・公民館主事・社会教育指導員等
- ・市町村教育委員会社会教育・生涯学習・学校教育関係職員等
- ・幼稚園、小中学校教職員
- ・社会教育関係団体の指導者（PTA・婦人団体・青少年団体の役員）等
- ・家庭教育学級の指導者及び学級生
- ・その他家庭教育に関心のある人、小中学生をもつ保護者等

カ 日程・内容

		13:30	14:30	16:40
9 月 14 日 (土)	受	①基調講演 「いじめ予防は可能か」	②シンポジウム 「いじめを生まない父親的環境、 母親的環境」 ～地域や家庭の教育力を考える力～	閉 会
	付			

① 基調講演 「いじめ予防は可能か」

講師 福岡教育大学教授・教育実践研究指導センター長 亀口 憲治

② シンポジウム 「いじめを生まない父親的環境、母親的環境」

登壇者 えなカウンセリングルーム 森川 早苗

宗像市保護司 吉田 利木

地元農業青年 天野 豊昭

コーディネーター 福岡教育大学教授 亀口 憲治

キ 参加者 368名

(2) 家庭教育セミナー「家庭における親のあるべき姿を求めて」

～育てていますか 豊かな心を～

ア 趣 旨

現在の子どもの現状を正しく理解するとともに、親としての役割や家庭教育の在り方について研究協議し、児童生徒の健全な成長に資する。

イ 主 催

福岡県教育委員会

南筑後地区PTA連合会母親部会、大川市小中学校PTA連合会、大川市教育委員会

ウ 主 管

福岡県教育庁南筑後教育事務所

福岡県立社会教育総合センター

エ 期日及び会場

平成8年10月23日(水)

大川市文化センター大ホール

オ 対象者

・家庭教育担当職員

・市町村教育委員会社会教育主事・公民館主事・社会教育指導員等

・市町村教育委員会生涯学習・社会教育関係職員等

・PTA役員

児童生徒の保護者

・その他家庭教育に関心のある人

カ 日程・内容

	13:00	13:20	15:20	16:20
10月23日(水)	受付	開会	①講演 「地球市民を育む家庭教育」	②研究協議 「家庭における親子のコミュニケーション」
				閉会

① 講演 「地球市民を育む家庭教育」

講師 福岡市女性センター「アミカス」館長 梁井 迪子

② 研究協議 「家庭における親子のコミュニケーション」

司会者 大川市PTA連合会母親代表 松藤 貴子

助言者 福岡市女性センター「アミカス」館長 梁井 迪子

キ 参加者 781名

(3) 家庭教育セミナー

ア 趣 旨

家庭教育における登校拒否等の今日的課題に対処する具体的実践方策について研究協議を行い、家庭教育指導者の資質の向上を図る。

イ 主 催

福岡県教育委員会

ウ 主 管

福岡県立社会教育総合センター

エ 期日及び会場

平成8年12月3日(火)

福岡県立社会教育総合センター

オ 対 象 者

- ・家庭教育学級の担当者
- ・市町村教育委員会社会教育主事・公民館主事・社会教育指導員等
- ・市町村教育委員会生涯学習・社会教育関係職員等
- ・その他家庭教育に関心のある人

カ 日程・内容

		10:15	11:45	13:00	14:10	15:40
12月3日 (火)	受付	①講義 「今、家庭教育の果たす役割」	昼食	②事例発表 「春日市コミュニカレッジ」 ～家庭教育学級からの新たな展開～ 「手づくり、ふれあい、夢づくりサークル」 ～泉公民館家庭教育学級の活動の実際～	③研究協議 「明日の家庭教育のために」 ～市町村における取組みの現状と課題～	閉会

- ① 講 義 「今、家庭教育の果たす役割」
講 師 福岡女学院大学非常勤講師 三谷 勝彌
- ② 事例発表(1) 「春日市コミュニカレッジ (びぎんざねっと)」
～家庭教育学級からの新たな展開～
発表者 春日市教育委員会社会教育課社会教育推進員 佐竹三紀枝
- 事例発表(2) 「手づくり、ふれあい、夢づくりサークル」
～泉公民館家庭教育学級の活動の実際～
発表者 行橋市泉公民館家庭教育学級長 池辺ゆかり
- ③ 研究協議 「明日の家庭教育のために」
～市町村における取組みの現状と課題～
助言者 春日市教育委員会社会教育課社会教育推進員 佐竹三紀枝
県教育庁指導第二部社会教育課主任社会教育主事 正平 辰男

キ 参加者 19名

6. 電話相談員の養成・研修

(1) 前期研修会

ア 期日 平成8年6月18日(火)～19日(水)

イ 主催 福岡県立社会教育総合センター

ウ 会場 福岡県立社会教育総合センター

エ 対象

- ・ 県・市町村教育委員会及び各相談機関で電話相談業務に従事している職員(非常勤も含む)
- ・ これから電話相談業務に従事しようとする者及び青少年健全育成等のボランティアを行っているもの。

オ 日程と内容

	9:30	10:00	10:30		12:30	13:30		15:30		17:00	19:00
6月18日 (火)	受付	開講式	①講義 「電話相談員に 期待されるもの」	昼食	②事例研究 ～実践事例から～		休憩			夕食・入浴	情報交換会

	10:00		12:00	13:00		15:30
6月19日 (水)	③講義 「スクールカウンセラーからの提言」	昼食	④講義・演習 「カウンセリングの理論と実際」	閉講式		

- ① 講 義 「電話相談員に期待されるもの」
 講師 福岡教育大学名誉教授 秋山 俊夫
- ② 事例発表 「今日の青少年の実際」
 ～登校拒否の相談事例から～
 事例発表者 北筑後教育事務所教育相談員 原武 和子
 助言者 福岡教育大学名誉教授 秋山 俊夫
- ③ 講 義
 講師 福岡大学学生相談室カウンセラー 田中 克江
- ④ 講義・演習 「カウンセリングの理論と実際」
 講師 福岡県教育センター教育相談研究室研究主事 古川 泰永

カ 参加者 98名

(2) 後期研修会

ア 期日 平成8年9月12日(木)～13日(金)

イ 主催 福岡県立社会教育センター

ウ 会場 福岡県立社会教育総合センター

エ 対象

- ・ 県・市町村教育委員会及び各相談機関で電話相談業務に従事している職員（非常勤も含む）
- ・ これから電話相談業務に従事しようとする者及び青少年健全育成等のボランティアを行っているもの。
- ・ 県立学校及び市町村立小中学校養護教諭

オ 日程と内容

10:00		10:10		12:00		13:00		15:30		17:00		19:00	
9月12日 (木)	受付	開講式	①講義 「いじめの構図とメカニズム」	昼食	②研究協議 全体会 事例発表 「いじめの実態とその要因を探る」		グループ研究協議	休憩	夕食・入浴	情報交換会			

10:00		12:00		13:30		15:30	
9月13日 (金)	③報告 分科会の報告 質疑応答	④講義 「青少年の問題 行動と家庭教育」	昼食	⑤公開講座 「子どもの『育ち』 を考える」	閉講式		

① 講 義 「いじめの構図とメカニズム」

講師 福岡教育大学教授

秦 政春

② 研究協議

〈全体会〉

事例発表 「いじめの実態とその要因を探る」

発表者 福岡県立社会教育総合センター電話相談員

石川 國子

〈グループ研究協議〉

全体会を受けて、4グループでの協議

③ 報 告

グループ研究協議の報告及び質疑応答

④ 講 義 「青少年の問題行動と家庭教育」

講師 稲築町社会教育委員

久家 貞美

⑤ 公開講座 「子どもの『育ち』を考える」

講師 東京家政大学教授

伊藤 俊夫

キ 参加者 170名

7. 電話による相談事業

- (1) 専用電話「家庭教育110番」を設置。(092-947-3515)
- (2) 開設曜日・時間は、月曜から土曜までの8時30分から17時まで。
- (3) 電話相談の内容及び件数 次頁参照

福岡県立社会教育総合センター「家庭教育110番」
平成8年度 家庭教育電話相談件数一覧

月 別		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	
相 談 件 数		42	58	46	35	22	37	42	30	28	25	36	25	426	
相 談 者	母	39	49	41	30	20	35	34	27	27	22	28	21	373	
	父	3	3	3	1	0	2	3	0	0	1	4	1	21	
	そ の 他	0	6	2	4	2	0	5	3	1	2	4	3	32	
対 象 者	乳 幼 児	17	20	20	13	6	17	13	11	12	14	11	11	165	
	小 学 生	12	12	7	8	3	4	7	5	8	4	6	4	80	
	中 学 生	5	12	12	10	10	7	11	5	3	3	10	2	90	
	高 校 生	2	7	4	1	2	5	5	5	4	1	3	1	40	
	そ の 他	6	7	3	3	1	4	6	4	4	1	3	6	7	51
地 区	福 岡 市	11	22	17	14	7	10	17	7	7	5	8	9	134	
	北 九 州 市	4	3	3	3	2	9	4	2	3	7	5	1	46	
	福 岡 地 区	14	15	10	8	4	5	9	6	5	3	4	3	86	
	北 九 州 地 区	5	4	4	3	4	6	1	5	2	1	0	2	37	
	筑 豊 地 区	3	7	3	3	1	5	1	4	1	4	6	4	42	
	京 築 地 区	1	0	0	1	1	0	1	1	1	0	1	0	7	
	筑 後 地 区	4	6	9	3	2	2	6	4	3	3	5	4	51	
	そ の 他	0	1	0	0	1	0	3	1	6	2	7	2	23	
相 談 項 目	育 児 関 係	性 格 ・ 情 緒 障 害	4	3	0	0	2	4	2	2	2	2	2	1	24
		発 育 の お く れ	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	4
		こ と ば	2	2	1	1	0	2	0	0	0	2	0	1	11
		登 園 拒 否	0	0	3	2	0	2	1	1	1	1	0	0	11
		園 と の 関 係	2	0	0	1	0	0	2	0	0	1	1	1	8
		友 だ ち	1	1	4	2	1	2	2	0	0	0	1	2	16
		い じ め	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
		し つ け	1	7	5	4	2	1	4	4	5	4	2	3	42
		家 族 関 係	0	1	4	2	0	1	0	1	2	1	1	3	16
		医 療	6	5	1	1	0	2	0	2	2	0	2	0	21
	そ の 他	1	0	2	0	1	2	0	0	0	3	2	0	11	
小 計	17	20	20	13	6	17	13	11	12	14	11	11	165		
家 庭 教 育 関 係	登 校 拒 否	3	5	3	0	1	4	3	4	2	2	6	3	36	
	学 業	1	4	2	5	0	2	1	1	0	2	5	0	23	
	学 校 と の 関 係	2	2	2	1	1	2	3	1	2	0	0	0	16	
	問 題 行 動 ・ 非 行	5	4	3	1	1	3	5	6	4	2	2	0	36	
	性 格 ・ 情 緒 障 害	4	1	2	0	1	1	2	1	0	1	1	0	14	
	性	0	1	0	0	1	0	3	0	0	0	2	0	7	
	友 人 関 係	3	3	4	2	2	0	0	1	1	1	3	1	21	
	弱 者 い じ め														
	家 庭 教 育	5	10	9	9	7	7	3	2	6	0	2	2	62	
	家 族 関 係 し つ け														
身 体	1	0	0	1	0	0	3	0	0	0	0	1	6		
そ の 他	1	8	1	3	2	1	6	3	1	3	4	7	40		
小 計	25	38	26	22	16	20	29	19	16	11	25	14	261		
合 計	42	58	46	35	22	37	42	30	28	25	36	25	426		
備 考															

(注) 育児関係の対象→乳幼児、家庭教育関係の対象→小・中・高・一般

福岡県における小学生をもつ父親・母親の 養育態度・行動の実態調査に関するまとめ

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

子供に対する保護者の具体的な関わり方（養育態度・行動）は、子供の意欲や自主性・耐性などパーソナリティの健全な発達に大きく関係しているといわれている。

このような観点から、保護者が子に対してどのように関わっているか（保護者の養育態度・行動）について、その実態を明らかにしていくことは、今後の望ましい家庭教育の在り方を探究していく上で極めて重要な問題である。

そのために、昭和55年度及び平成3年度に、小学生をもつ保護者に対する調査を実施し、その中で保護者の過保護・過干渉・放任という養育態度・行動の特徴が明らかになった。

前回の調査後、子供を取り巻く環境の変化として、平成4年から学校週5日制が導入され、家庭の果たすべき役割がますます重要視されている。このような中で保護者の養育態度を調査することにより、今後の、家庭の教育力を高めるための取組みが明らかになると考えられる。

本年度は、前回・前々回と同趣旨で、小学生をもつ保護者の養育態度・行動についての調査を実施し、15年間における保護者の養育態度や行動の変化を比較検討するとともに、「子供が生き生きと育つ家庭の在り方」を探究し、今後の福岡県の家庭教育の充実に資するものとする。

2. 調査の方法

(1) 調査の対象

本調査は、福岡県下19校の、小学生をもつ保護者を対象として実施した。回収数は5,721サンプルで、回収率は86.8%であった。ただし、有効サンプル数は5,437、そのうち父親が記入したものは2,561サンプル、母親が記入したものは2,876サンプルで、その有効率は95.0%であった。なお、記入者が父親母親以外のものは除外している。サンプルの内訳を、子供の学年、性別という条件で分類すると、表1、表2となり、親の年代別に分類したものが表3である。

表1 学年別サンプル数

	1	2	3	4	5	6	計
父	407	412	445	410	454	433	2,561
母	451	445	507	467	513	493	2,876
計	858	857	952	877	967	926	5,437

表2 男女別（学年別）サンプル数

		1	2	3	4	5	6	計
父	男	221	208	252	214	227	236	1,358
	女	186	204	193	196	227	197	1,203
	小計	407	412	445	410	454	433	2,561
母	男	224	207	252	228	232	228	1,371
	女	227	238	255	239	281	265	1,505
	小計	451	445	507	467	513	493	2,876
計		858	857	952	877	967	926	5,437

表3 親の年代別サンプル数

	25未満	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60以上	計
父	5	30	242	831	934	445	56	12	6	2,561
母	9	84	573	1,226	771	196	17	0	0	2,876
計	14	114	815	2,057	1,705	641	73	12	6	5,437

(2) 調査の方法

本調査は質問総数34項目からなる調査票「小学生のしつけ（養育制度・行動）についてのアンケート」によって、無記名で行われた。なお、調査票は男性の保護者用と女性の保護者用を作成し、質問の構成と内容はまったく同一のものとした。

これらの調査票の構成は次のとおりである。全体を、親の養育態度、養育学習と自己評価、養育意識の3領域に分けている。

さらに、親の養育態度を基本的な生活習慣、遊び、勉強、金銭感覚、社会性の5つの側面に、養育学習と自己評価を学び合い、しつけの自己評価、の2つの側面に、養育意識をしつけの目標、育ちの意識の2つの側面に分け、質問を設けている。

前回、前々回の調査との比較検討を主なねらいとしているため、大半が前回（平成3年度）と同じ質問になっている。

調査に用いられた質問項目の構成を表4に示している。アンケートの質問と回答の結果は、特に顕著なものについては本文中に、また全文と集計のまとめを本報告書の末尾に記載している。

(3) 調査の実施方法と時期

調査の実施にあたっては、調査票を直接協力校に持参し、学級担任をとおして各家庭に配布し、記入をお願いした。回収にあたっては、男性・女性の保護者の回答を学級ごとに集め、各学校ごとにまとめてもらった。

調査の実施時期は平成8年9月であった。調査に協力していただいた学校は本報告書の末尾に一覧されている。

表4 質問項目の構成

[1] 親の養育態度	[2] 養育学習と自己評価	[3] 養育意識
(1) 基本的な生活習慣	(1) 学び合い	(1) しつけの目標
1. 起床の世話 2. 持ち物の注意 3. 着替えの用意 4. 部屋などの整頓	22. 学校主催会合への出席 32. 地域行事活動への参加 30. しつけについての学習	34. 親が描く子ども像 23. 他との比較 24. 男女の区別
19. 寝る時刻 20. 履物の始末	(2) しつけの自己評価	(2) 育ちの意識
(2) 遊び	27. しつけの自信 28. 子どもの身の回りの世話 29. しつけの甘さ 31. 良いモデル	25. 子どもをほめる 33. しつけの重点
7. 遊び方 10. 遊び相手 8. テレビの内容 17. 宿題・手伝い忘れ		
(3) 勉強		
11. 勉強に対する注意 12. 勉強を見てやる 13. 塾へやる		
(4) 金銭感覚		
14. お金の与え方 15. お金の使い方 9. 物の買い与え		
(5) 社会性		
5. 挨拶 21. 言葉づかい 6. 友達 16. 手伝い 18. 共同で家事 26. ニュース解説		

3. 分析の基本的視点

調査結果の分析は、調査票の構成に沿った形で行われた。質問ごとの特徴や傾向を把握するとともに、昭和55年度（初回調査と呼ぶ）、平成3年度（前回調査）との比較検討をするために、結果の集計は父親・母親別、学年別、子どもの男女別に行った。また今回は、親の年齢別の集計をして、その傾向を見た。紙面の都合上、本報告書では、特に変化の度合いの大きいもの、特徴的なことのみ触れることにした。詳しくは、巻末の資料編にすべてのデータを掲載しているので御活用願いたい。

第2章 親の養育態度

1. 基本的生活習慣

基本的生活習慣（食事や着脱衣・睡眠等々に関する習慣）の確立は、社会生活を送る上での基本的な問題であり、子どもの心身の発達を望ましい方向へ促進させ、健全に育成する上での重要な意味を持っている。ここでは、15年間の養育態度の変化を、「起床」「持ち物」「着替えの用意」「部屋などの整頓」「寝る時刻」「履物の始末」という設問から考えることにする。

(1) 起床の世話

「今朝お子さんを起こしましたか」という問いに対して、初回の調査と比較してみると、ここ15年間の間に母親が起こしたという割合は12.0ポイントも上昇し68.8%の母親が起こしていると答えている。しかしながら、父親、母親が起こしたという割合は、この5年間の間にあまり大きな差は見られない。

親が子どもを朝起こすことは、過保護の例として取り上げられることが多いが、親はそれを当然のこととと思っているようである。

子どもを朝起こす親の割合は、7割ぐらいで固定化しており学年による変化もなく、落ちついてしまっていると言えよう。

図2-1 あなたは、今朝お子さんを起こしましたか。

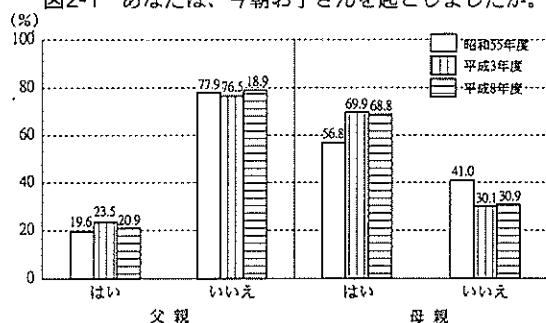
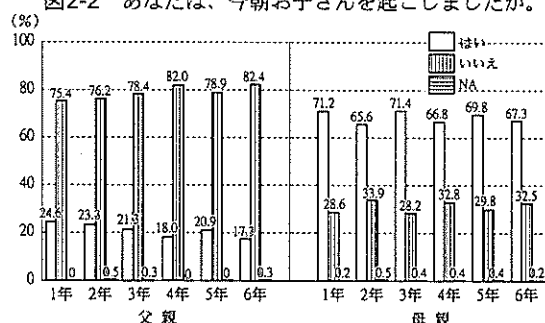


図2-2 あなたは、今朝お子さんを起こしましたか。



(2) 持ち物の注意

「持ち物の注意」については、「注意した」と答えた父親が10.7%、母親が66.0%であり、前回の調査からわずか5年間の間に、母親で約10ポイントも増加している。父親に比較して母親の方が注意する割合が多いのは、前回と同じである。

母親の学年別差異を見ると、母親の関わる割合が50%を切る学年は、初回では4年生頃から少なくなっていたのに比べ前回からは5年生頃に移行し、今回は6年生頃に移行している。

今後も母親が注意する割合は、増え続けることが予想される。

「忘れ物はないか」と声をかけるのは、子どもが困ることを心配してのことだろう。低学年の子どもに対してならわかるが、高学年の子どもにも注意しているのは過保護といえよう。

図2-3 あなたは、今朝お子さんが学校に出かける前に、持ち物について注意しましたか。

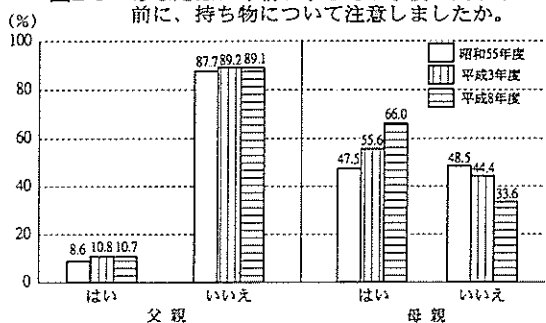
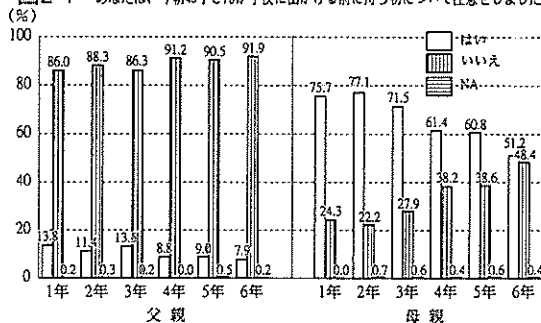


図2-4 あなたは、今朝お子さんが学校に出かける前に持ち物について注意しましたか。

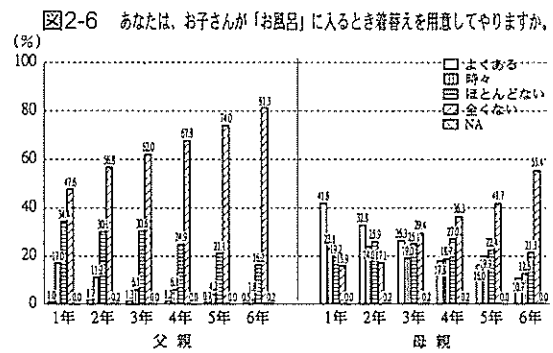
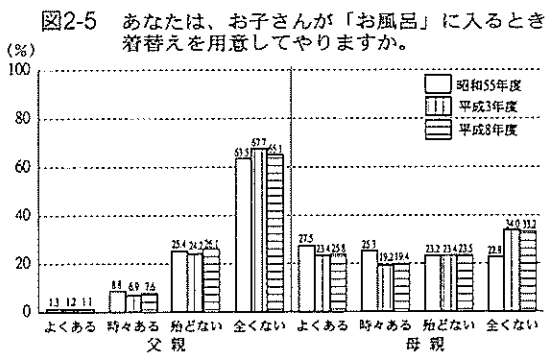


(3) 着替えの用意

「着替えを用意すること」については、「よくある」「時々ある」をあわせて父親が8.7%、母親が43.2%であり、前回の調査とほとんど同じ結果である。

母親の学年別差異では、小学校1年生段階では、「よくある」「時々ある」と答えた母親が64.9%もいる。その割合は減少するものの、小学校6年生段階でもなお、23.3%の母親が「よくある」「時々ある」と答えている。また、父親が着替えの用意をしてやる割合は、各学年ともにごくわずかである。

親が着替えを用意するかどうかは、子どもにまかせられると思っているかどうかにか左右されると思われる。学年別差異をみると、およそ3年生になると、母親はまかせられると子どもをみていることがわかる。

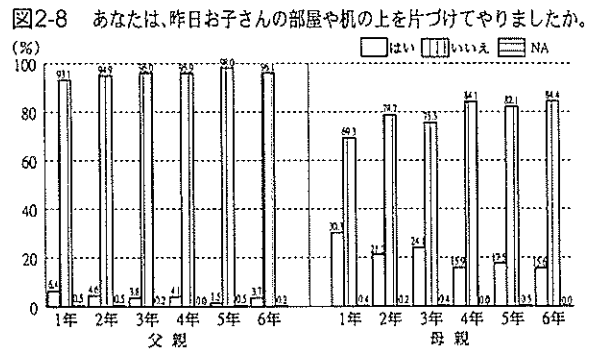
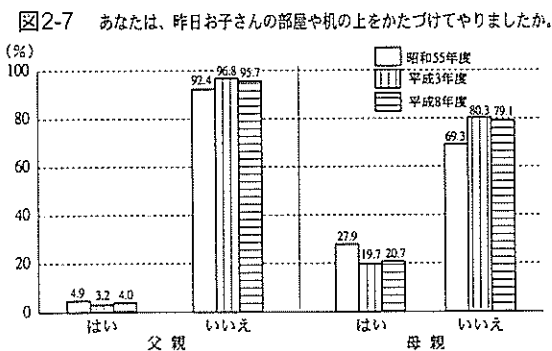


(4) 部屋などの整頓

「子どもの部屋や机の上をかたづけをすること」については、「はい」と答えた父親は4.0%、母親は20.7%であり、前回の3.2%、19.7%に比較して、世話をする割合が若干増加している。

この項目は、他の生活領域の項目に比べると、親の関わる割合が少ない。

学年別差異を母親の場合で見ると、1年生30.3% (前回28.5%)、3年生24.1% (21.0%)、6年生15.6% (14.2%)である。学年が上がるにしたがって、母親がかたづける割合が減少している。前回調査と比較すると、全ての学年でわずかではあるが増加している。



(5) その他

その他、「寝る時刻」については父親・母親とも正しい生活習慣や態度を身につけさせるために、特に低学年のうち「決めている」割合が高い。反面、「履物の始末」の指導では、父親よりも母親が、そして男の子に対してより女の子に対して、指導しようとする姿がうかがえる。

2. 遊 び

子どもにとって遊びは、生活そのものであり、学習の場であると言える。子どもたちは、子ども同士の遊びの中で、社会性や耐性を培っていくものである。ところが、今日、子どもたちの遊びは、その内容、場所、仲間のあらゆる点から姿を変えてきている。この遊びに対しても、「遊び方」「遊び相手」「テレビの内容」「宿題・手伝い忘れ」という設問から考えることにする。

(1) 遊 び 方

「遊びの内容や遊び方についての注意をすること」については、「よくある」「時々ある」は、父親で55.3%（前回42.9%）、母親で63.3%（46.7%）であり、両親ともに約半数がなんらかの注意をしている。今回の方が父親で12.4ポイント、母親で16.6ポイント増加している。「お子さんの遊び相手をしてあげるか」という問いとの相関を見ると、父親で「遊びをよく注意する」と回答したもののうち、遊び相手をするのが「よくある」と回答したものが40.5%、「時々ある」と回答したものが18.0%であった。父親においては、遊びを注意するもののほうが、相手をしてあげる割合が高いという結果がでている。

初回、前回、今回の調査で、子どもの遊びを注意する親が一度減少して、また、増加してきている。近ごろの子どもは、外で遊ぶことが非常に少ないので、例えば「外で遊びなさい」という形での注意が増えてきているのではないだろうか。

図2-9 あなたは、お子さんの遊びの内容や遊び方についていちいち注意することがありますか。

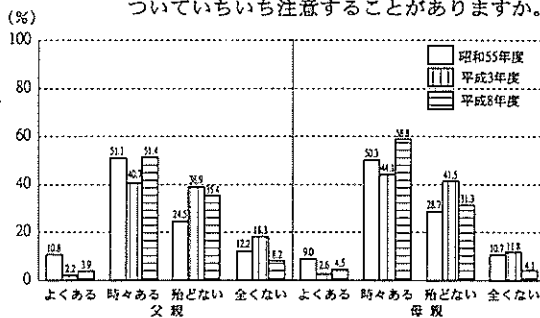
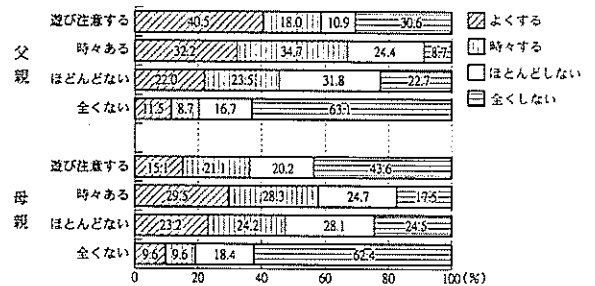


図2-10 「遊び注意」の自己評価別にみた「遊び相手」の実態。あなたは、お子さんの遊び相手をしてあげることがありますか。



(2) 遊 び 相 手

「子どもの遊び相手をしてやる」ことについては、「よくある」「時々ある」は、父親で83.7%（初回83.9%）、母親で73.9%（70.6%）であり、初回の調査からの顕著な変化はみられない。子どもとの関わりの中で、この遊びの設問だけが父親の方が多い。

(3) テレビの内容

「テレビ番組の内容に対する注意」では、「よくある」「時々ある」は、父親で43.0%（前回47.5%）、母親で48.4%（53.4%）である。今回の方が父親で4.5ポイント、母親で5.0ポイント減少している。「身の回りの世話をしているほうだと思いますか」という問いとの相関をみると、「全く子どもの世話をしていない」と思っている父親で、注意することが「よくある」「時々ある」を合わせると31.4%、母親は31.8%となり、世話をしていないつもりが実際にはかなり関わっているといえよう。

図2-11 あなたは、お子さんが見ているテレビ番組を内容によって注意することがありますか。

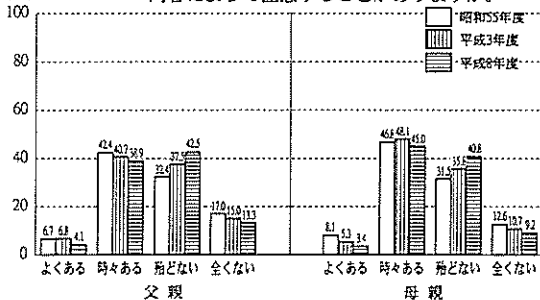
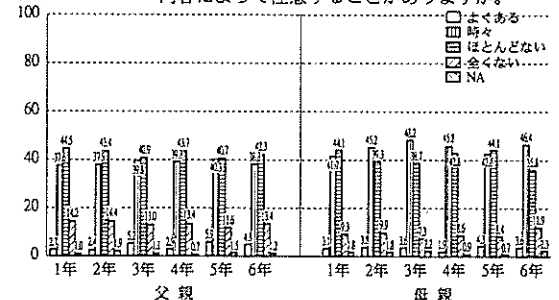


図2-12 あなたは、お子さんが見ているテレビ番組を内容によって注意することがありますか。



(4) 宿題・手伝い忘れ

「宿題や手伝い忘れの注意」については、「必ずやる」「時々する」父親は77.5%、母親は93.7%である。両親とも他の問いより関わりの割合が高い。

母親の学年別差異をみると、注意を「必ずする」「時々する」を合わせると1年生95.6%、3年生94.3%、6年生90.3%である。父親の場合は、1年生73.9%、3年生79.8%、6年生73.4%である。

母親も父親も前回の調査では、高学年になると注意することが減ったのに対して、今回は鈍くなっており、学年の差がなくなっている。どの学年でも子どもの勉強や手伝いへの関心は、初回、前回より大きくなっている。

「忘れていたら注意する」ということがあたりまえという傾向になっており、高学年になっても割合が変わらないことに注意する必要がある。

図2-13 あなたは、お子さんが宿題や手伝いを忘れていたら注意しますか。

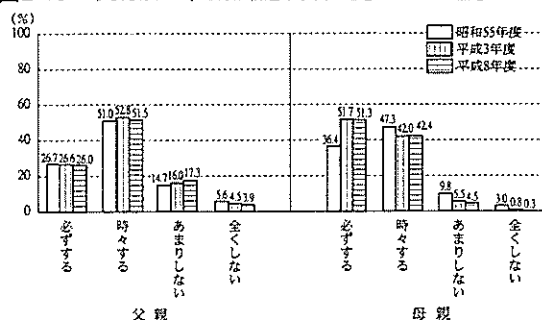
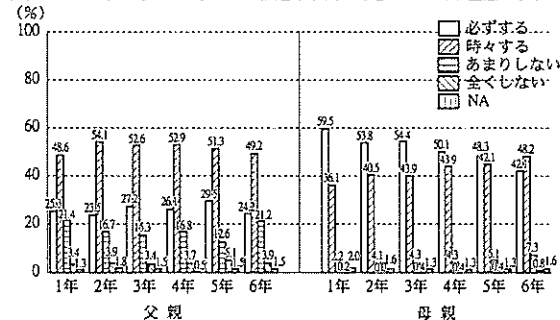


図2-14 あなたは、お子さんが宿題や手伝いを忘れていたら注意しますか。



3. 勉強

一般に文化が進めば進むほど、人間が教育を受けなければならない期間は長くなる。義務教育を中心として組織的・発展的に行われる教育は、人間として自ら生きぬくための基礎能力を養うことにある。

ここでは、勉強に対する親の養育態度の変化を、「勉強に対する注意」「勉強を見てやる」「塾へやる」という設問から考えることにする。

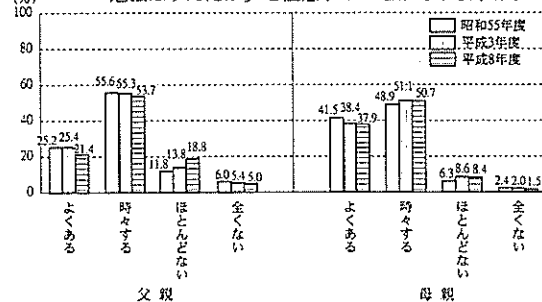
(1) 勉強に対する注意

「勉強に対する注意」については、「よくある」「時々ある」を合わせると、父親は75.1%、母親は88.6%である。

初回（父親は80.8%、母親は90.4%）前回（父親は80.7%、母親89.5%）の調査と比べると、両親とも少なくなっているが、特に父親が少なくなっている。

このことから、両親とも子どもの勉強に対する関心は高いが、勉強に対する注意は、今後もゆるやかな減少の傾向が続くことが予想される。

図2-15 あなたは、お子さんが遊んだり、テレビを見ているとき「勉強はすんだか」と注意することがありますか。



(2) 勉強を見てやる

「勉強をみてやる」については、「よくある」「時々ある」を合わせると、父親は64.8%、母親は83.1%であり、母親の方がかなり多いことがわかる。

また、初回、前回ともに、同じ問いでないため単純に比較できないが、前回の調査（父親は96.1%、母親は98.6%）と比べると、両親ともに少なくなっていており、特に、父親が31.3ポイント少なくなっている。

このことから、両親とも子どもの勉強を見るのが減少する傾向にあり、加えて母親まかせになっていることがうかがえる。

(3) 塾へやる

「学習塾にやること」については、「はい」と答えた父親は19.2%、母親は17.9%である。

初回（父親は15.7%、母親は14.2%）前回（父親は19.0%、母親は18.2%）の調査と比べると、初回より4ポイント程度増えているものの、前回と今回はほとんど変化はない。

このことから、塾へやることについての親の意識の変化はあまり見られず、今後も同様であることが予想される。

しかし、現実には、塾には通っていないが、剣道、サッカー、習字などの習い事に通う子どもが増えているとも言われている。

4. 金銭感覚

金銭感覚を養うことは、将来、子どもがよりよい生活を築くための重要な指導事項である。子どもの小遣いの金額は、一般的に多くなってきており、小遣いをどのように与え、どのように使わせるかは、家庭教育における大切な問題である。

ここでは、「金銭感覚」について、「お金の与え方」「お金の使い方」「物の買い与え」という設問から考えることにする。

(1) お金の与え方

「小遣いの与え方」については、「必要時に」と答えた割合が一番高く、父親は47.2%、母親は52.8%である。前回の調査でも「必要時に」と答えた割合（父親は44.2%、母親は46.9%）が一番高かったが、今回はさらに高くなっている。

また、学年別の差異を見てみると、両親共に同じ傾向が見られ、全学年を通して「必要時に」が多いが、学年が上がるにつれて「一ヶ月まとめて」が多くなってきている。

前回は、6年生の母親で、「必要時に」が38.3%、「一ヶ月まとめて」が44.2%だったのが、今回は、「必要時に」が47.2%、「一ヶ月まとめて」が33.6%と逆転している。

これらのことから、小遣いは必要時に与え、計画的に使う指導がおろそかになっていると考えられる。

図2-16 あなたは、お子さんにおこづかいをどのように与えていますか。

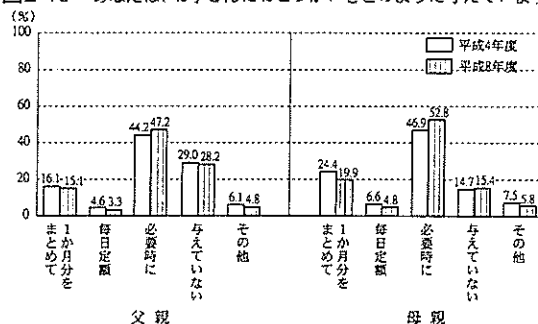
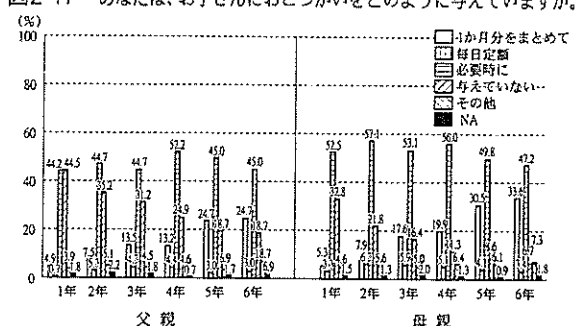


図2-17 あなたは、お子さんにおこづかいをどのように与えていますか。



(2) お金の使い方

「ムダづかいの注意」については、「よくある」「時々ある」を合わせると、父親は47.6%（前回47.0%）、母親は58.0%（前回56.6%）である。

前回の調査と比べても、ほとんど変化が無く、子どものムダづかいに対して、父親は約5割が、母親は約6割が注意を払っていることがわかる。

(3) 物の買い与え

「『みんながもっているから』と物をほしがったとき、買ってやったことがありますか」の問いでは、「よくある」「時々ある」を合わせると、父親は51.4%（前回45.7%）、母親は51.4%（前回47.2%）である。

前回の調査と比べると、両親とも物を買って与える割合が高くなっている。

このことから、両親とも子どもの要求に応じる傾向が強くなってきていることがうかがえる。

5. 社会性

人間は、本来、個人的であると同時に社会的な存在である。

従って、子どもに、自分を主張するだけでなく、他人の立場になって考えたり、社会規範を守ろうとする養育態度を育てることが大切になる。

ここでは、社会性に対する親の養育行動の変化を、「挨拶」「言葉づかい」「友達」「手伝い」「共同で家事」「ニュース解説」という設問から考えることにする。

(1) 挨拶

「近所の人や友人への挨拶」については、「必ず注意する」「時々注意する」を合わせると、父親は84.1%、母親は96.1%となっており、母親の方が熱心であるが、両親とも挨拶についての注意をよくしていることがわかる。

また、初回（父親は84.5%、母親は91.9%）、前回（父親は80.1%、母親は94.2%）の調査と比べても、ほとんど変化がなく、今後も挨拶に対する関心は高いであろう。

(2) 言葉づかい

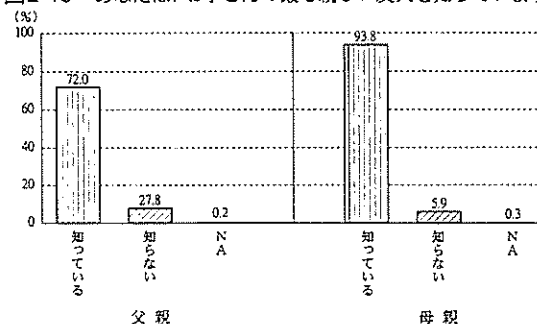
「言葉づかいについての注意」については、「よくある」「時々ある」を合わせると、父親は75.9%（前回78.6%）、母親は85.4%（前回93.8%）であり、両親とも言葉づかいを注意する割合が高い。

また、前回の調査と比べると、両親ともわずかに今回の方が割合が低くなっている。

(3) 友達

「お子さんの最も親しい友達」については、「知っている」と答えた父親は72.0%、母親は93.8%となっており、母親の方が子どもの友達をよく知っているとはいえ、両親とも子どもの友人関係に対する関心が高いことがうかがえる。

図2-18 あなたは、お子さんの最も親しい友人を知っていますか。



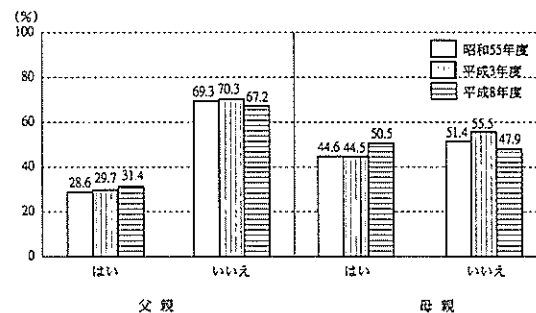
(4) 手伝い

「何か決まった手伝いをさせていますか」の問いでは、「はい」と答えた父親は31.4%、母親は50.5%となっており、母親の方が手伝いをさせる割合が高いが、両親とも手伝いをあまりさせていない。

また、初回（父親は28.6%、母親は44.6%）、前回（父親は29.7%、母親は44.5%）の調査に比べると、両親とも、今回の方がわずかに割合が高くなっているが、特に、母親の方が手伝いをさせる割合が高くなっている。

手伝いをさせる割合は、今後ともゆるやかに増加していくことが予想される。

図2-19 あなたは、現在お子さんに何か決まったお手伝いをさせていますか。



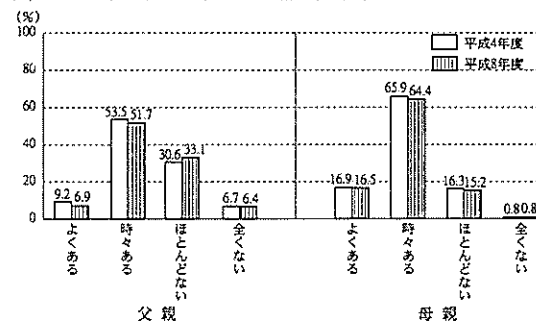
(5) 共同で家事

「お子さんと一緒に家の仕事をする事」については、「よくある」「時々ある」を合わせると、父親は58.6%、母親は80.9%となっており、母親に比べて、一緒に家事をしない父親が多いことがわかる。

また、前回と比べると、両親ともわずかに今回の方が割合が低くなっている。

親子で一緒に家事をする割合が、今後ともゆるやかに減少していくことが予想される。

図2-20 あなたは、お子さんと一緒に家の仕事をすることがありますか。



(6) ニュース解説

「お子さんに社会の出来事について話をしてやること」については、「よくある」「時々ある」を合わせると、父親は61.0%、（前回68.5%）母親は79.3%（前回81.9%）であり、両親とも半数以上が社会の出来事について話をしてやっていることがわかる。また、母親の方が少し積極的に社会の出来事について話をしていることがわかる。

しかし、前回と比べると、両親とも今回の方が割合が低くなっている。

第3章 親の養育学習と自己評価

1. 学び合い

急激に変化する社会の中では、子どもを健やかに育てていくために、親自身が子育てに関する学習を積み重ねていくことが必要不可欠となる。ここでは、親が子育てに関する学習にどのように取り組んでいるかを「学校が主催する会合への出席」「地域の行事や活動への参加」「しつけについての学習」の設問に対する調査から考えることにする。

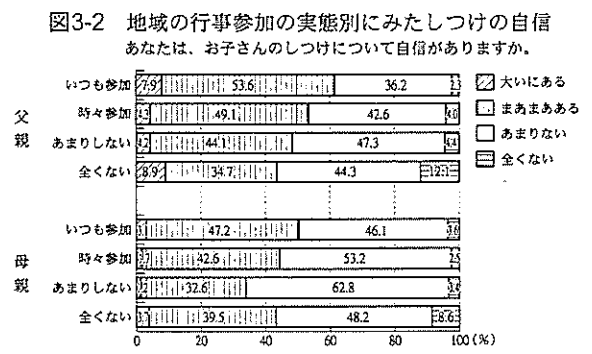
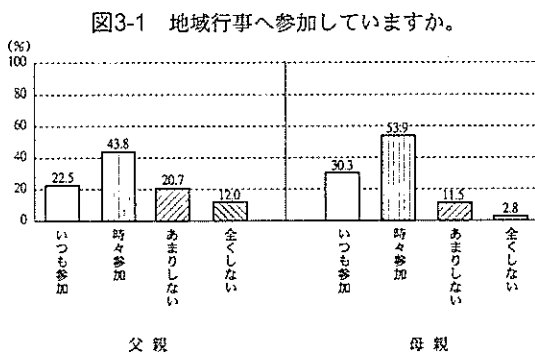
(1) 学校が主催する会合への出席

前回調査に比べて、父親の参加が1～3ポイント増えている。前回の「全くない」が、14.9%から10.2%に減少しているのが目立つ。同時に、母親の参加も「よくある」が、前回の46.2%から今回は53.7%に増えている。

(2) 地域行事や活動への参加

初回、前回ともに同じ問いはない。昭和60年の「小・中学生をもつ親の日常生活についてのアンケート」に同じ問いがある。調査対象が異なるので、単純に比較はできないが、傾向としては父親・母親ともに減少しつつある。

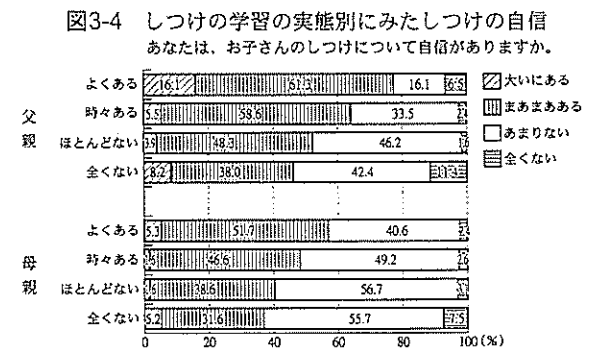
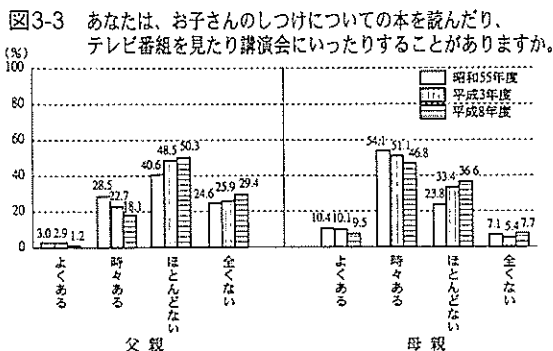
「しつけの自信」という問いとの相関を見ると、「地域行事にいつも参加している」父親は、しつけに自信を持っており、「地域行事に全く参加していない」父親は、しつけに自信を持っていない傾向にある。母親の場合も、父親ほど強くはないが、ほぼ同じ傾向にある。



(3) しつけについての学習

「しつけについての学習」は、父親、母親ともに初回、今回と漸減傾向にある。父親の学習は、「よくある」「時々ある」を合わせて、初回31.5%から今回19.3%に減少している。

母親の学習は、「よくある」「時々ある」を合わせて、初回64.5%から今回54.3%に減少している。



「しつけの自信」の問いとの相関をみると、父親、母親ともに「しつけについての学習」をよくする親は、しつけに自信を持っており、「全くしない」親は、比較的自信を持っていないようである。また、「しつけについての学習」と「地域の行事や活動に参加しますか」との相関をみると、「しつけについての学習」をよくする親は、父親、母親ともに「地域行事や活動」によく参加している傾向がみられる。

2. しつけの自己評価

子育てについて、最終的な責任を負うのは親である。その親が確固たる養育意識をもつことが必要である。ここでは、親自身が自分のしつけをどのように自己評価しているのかを「しつけの自信」「子どもの身の回りの世話」「しつけの甘さ」「良いモデル」の設問から考えることにする。

(1) しつけの自信

しつけの自信は、父親、母親ともに初回、前回、今回と漸減の傾向にある。父親は、「大いにある」「まあまあある」を合わせて、初回64.7%から今回51.7%に減少している。母親は、「大いにある」「まあまあある」を合わせて、初回47.2%から今回43.7%に減少している。

「しつけの自信」と「決まった手伝いをさせていますか」の問いとの相関では、「しつけに自信を持っている」親は、「自信を持っていない」親よりも「決まった手伝いをさせている」傾向にある。

図3-5 あなたは、お子さんのしつけについて自信がありますか。

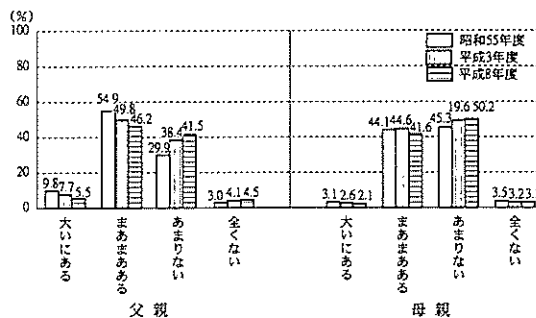
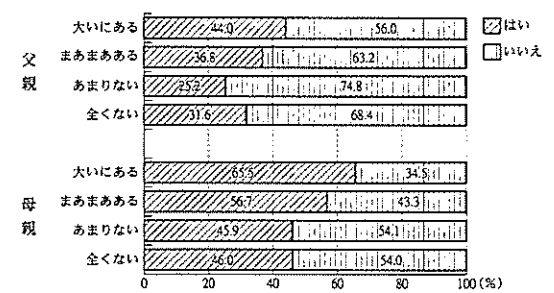


図3-6 しつけ自信自己評価別にみた「手伝い」の実態
あなたは、現在お子さんに何か決まったお手伝いをさせていますか。



(2) 子どもの身の回りの世話

父親が子どもの身の回りの世話をする度合いは、初回、前回、今回を比べると減少の傾向にあるが、母親の度合いは変わらない。

「決まった手伝いをさせていますか」の問いとの相関では、父親の場合、「身の回りの世話をよくしている」父親ほど「決まった手伝い」をさせている傾向にある。母親は父親とは反対の傾向にあり、「たいへんしている」母親は「決まった手伝い」をさせていない傾向にある。

図3-7 あなたは、お子さんの身の回りの世話をしているほうだと思いますか。

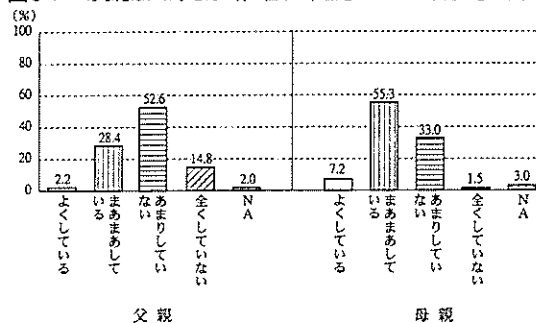
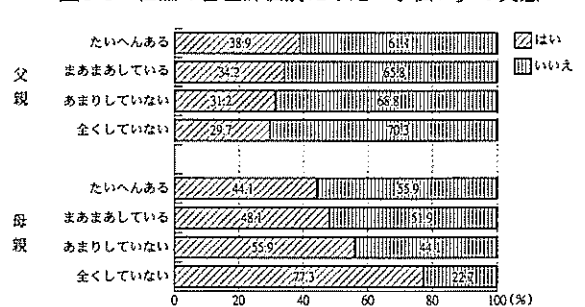


図3-8 世話の自己評価別にみた「手伝い」の実態



また、その他のいろいろな問いとの相関をみていくと、「世話をしている」方が「宿題や手伝い忘れを注意すること」が多く、「みんなが持っているからと物を買って与えること」が多い。

あわせて、「勉強はすんだかと注意する」が多く、「持ち物について注意する」ことが多く、「朝、子どもを起こしている」傾向にある。

(3) しつけの甘さ

「しつけについて甘い方だと思いますか」の問いでは、前回調査と顕著な違いは見られない。

「決まった手伝いをさせていますか」の問いとの相関によれば、「甘くない」親の方が「決まった手伝い」をさせている傾向にあることがわかる。

図3-9 あなたは、お子さんのしつけについて甘い方だと思いますか。

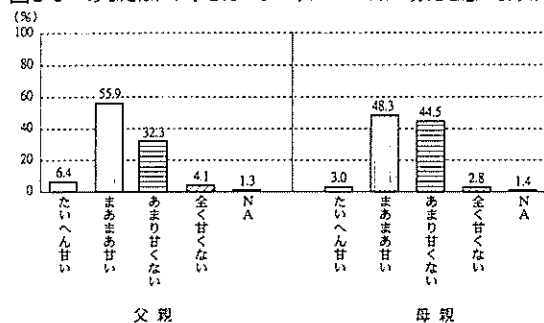
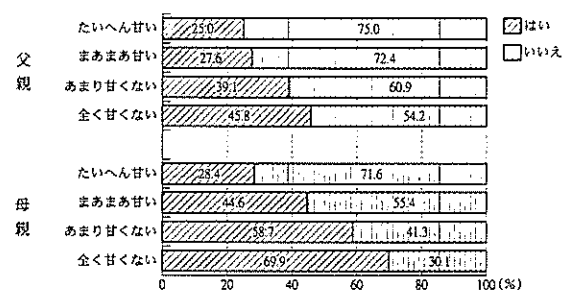


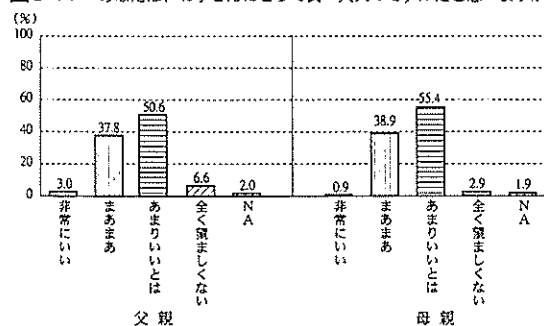
図3-10 しつけの甘さ自己評価別に見た「手伝い」の実態



(4) 良いモデル

初回、前回ともに「お子さんにとって良いモデルだと思いますか」の問いはしていない。昭和60年の「小・中学生をもつ親の日常生活についてのアンケート」に同じ質問がある。調査対象が異なるので、単純に比較はできないが、父親・母親ともに「まあまあ良いモデル」と「あまり良いモデルではない」が逆転していると思われるほどの違いがうかがえる。

図3-11 あなたは、お子さんにとって良い大人のモデルだと思いますか。



第4章 養育意識

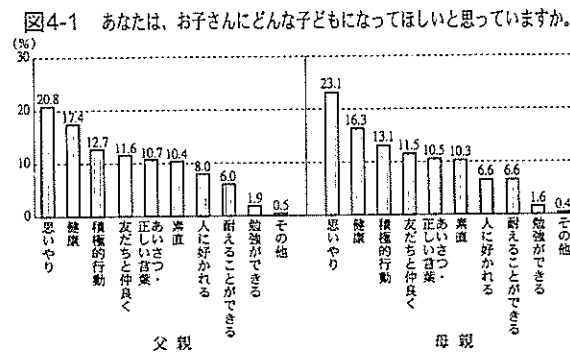
1. しつけの目標

核家族化・少子化が進行する中で、一般的な傾向としては親は子どもに対して過大な期待を持ち、子どもを抑圧したり、過保護であったりしている。さらに、教育に対する見方・考え方は多様化している。このような状況の中で、親自身が子育てに対してどんな意識を持っているかを、「親が描く子ども像」「他との比較」「男女の区別」の設問から考えることにする。

(1) 親が描く子ども像

親が子どもを養育する場合、親はどのような子どもになってほしいと願っているのであろうか。「お子さんにどんな子になってほしいと思っていますか」という問いに対して、第1位が「思いやりのある子」父親20.8%、母親23.1%、第2位「健康で丈夫な子」、第3位「自己主張や積極的な行動のできる子」と父母ともなっている。前回調査と1、2位は変わらないが、3位の「自己主張や積極的な行動のできる子」の順位が上がっているのが変わってきている。前は父親で6位、母親では7位であった。

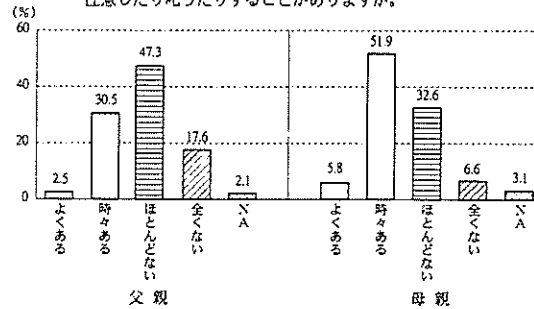
前回同様「勉強のできる子」は、その他を除く回答項目中では最も割合が低く（9位）なっている。しかし、「しつけで心を配っていること」という問いで、「学習意欲」が母親では5位にあげられていることや、勉強について「よく注意する」割合が高いという実態との違いがあるようだ。



(2) 他の子どもとの比較

「兄弟やよその子を引き合いに出しての注意」については、「よくある」「時々ある」を合わせると、父親33.0%（前回36.3%）、母親57.7%（前回58.8%）と母親がかなり多く、前回と同様の結果である。母親の割合が高いことは子どもとの接触時間が母親のほうが多いことも理由の一つとして考えられる。また、半数近くの家庭で比較によって叱ることが依然として行われている現状が示されているのであるが、子どもは比較されて注意されることを嫌悪し意気消沈することは既知のことである。まず、ありのままの子どもを認めることから始めてはどうだろうか。

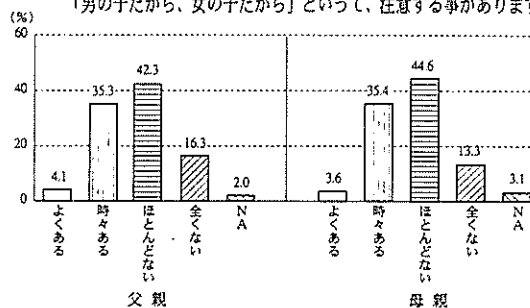
図4-2 あなたは、お子さんをきょうだいやその子を引き合いに出して、注意したり叱ったりすることがありますか。



(3) 男女の区別

「『男の子だから、女の子だから』といって注意すること」については、「よくある」「時々ある」をあわせると、父親39.4%（前回47.3%）、母親39.0%（前回43.9%）である。前回と比較すると、男女による注意の割合は減少の傾向を示していると言えよう。社会的な性意識の変容による影響が大きいことが考えられる。

図4-3 あなたは、お子さんに対して男女の区別をする必要がないことも「男の子だから、女の子だから」といって、注意する事がありますか。



2. 育ちの意識

子どもが自立していくためには、一つ一つ身につけていかなければならない「発達過程」がある。この発達過程には、適時性と累加性があるため、親が子どもの発達の状況を的確に把握することが、養育の前提条件となる。親が子どもの発達をどのようにしてとらえているかを「子どもをほめる」「しつけの重点」の設問に対する調査から考えることにする。

(1) 子どもをほめる

「ほめること」については、父親では「よくある」22.1%、「時々ある」68.3%、母親では「よくある」29.8%、「時々ある」64.4%であり、ほとんどの親がほめていると言えよう。

「勉強の注意」の問いとの相関をみると、父親ではあまり相関がみえないのであるが、母親の場合、「ほめる」の割合が低くなるほど「勉強はすんだか」と注意する割合は高くなっている傾向がある。（ただし、全くほめない母親は0.1%と人数が少ないこともあり、例外となっている）

「社会の出来事について話をしてやること」の問いとの相関では、「勉強の注意」とは逆に「よくほめる」親の場合、父母とも「社会の出来事を話す」傾向がある。これは前回調査結果と同様のことが示されている。社会と隔絶しがちな子どもに対して、社会人である親がこういった会話を成立させていくことが大切ではないだろうか。

図4-4 「ほめる」の自己評価別にみた「勉強注意」の実態
あなたは、お子さんが遊んだりテレビを見たりしているとき、「勉強はすんだか」と注意することがありますか。

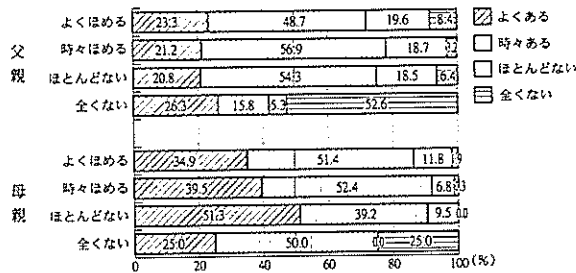
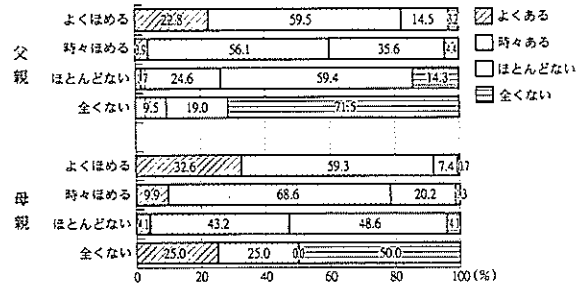


図4-5 「ほめる」の自己評価別にみた「出来事話」の実態
あなたは、お子さん社会の出来事について話をしてやることがありますか。

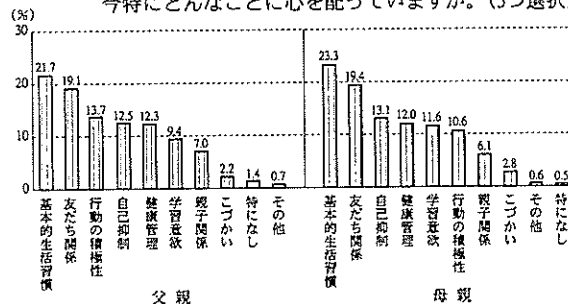


(2) しつけの重点

今の親は、どのようなことに重点をおいてしつけをしているのであろうか。「お子さんのしつけについて、今特にどんなことに心を配っていますか」という質問では、第1位は「あいさつや言葉づかい等の基本的な生活習慣」(父親21.7%、母親23.3%)、第2位は「友達との関係」となっており、前回調査と同じ順になっている。

父親と母親を比べると、「行動の積極性」の問いに違いが見られる。父親が第3位であるのに対して母親は第6位と父親のほうが順位が高くなっている。母親の場合は、前回と同じ順位なのに対し、父親は前回の5位から順位が上がっており、父親の方に「行動の積極性」を重視する傾向がでてきているようである。

図4-6 あなたが、お子さんのしつけについて、今特にどんなことに心を配っていますか。(3つ選択)



第5章 結論と今後の課題

福岡県の小学生の親がどのように養育を行っているのか、その実態調査は3回目を終えた。15年前の調査では、「無意識の過保護」と「一部放任」という特徴が、5年前の調査では保護面における「選択的過保護」、育成面の「選択的しつけ」、親の「耐性なき養育意識」、「学習なき成長観」が指摘された。時の経過とともに親の養育は形を変えてきている。今回の調査から明らかになる養育の兆候を以下にまとめ、今後の課題の方向づけを提案する。

1. 15年間の親の養育はどのように変わってきたか？

過去の変遷を概観することによって、明日の養育の動向が明らかになると考える。

(1) 養育態度

【父親】

- ① 子どもの生活面でほとんど関与できていない状況に変わりはない。
- ② 子どもと遊ぶのは母親よりも多く、遊びの内容などの注意をするようになっていくが、テレビの内容についての注意は減少している。
- ③ 勉強への督促や勉強を見てやることは減少している。
- ④ ムダづかいの注意は半数ぐらいの割合に安定しているが、皆が持っていると言われる物を買って与えてしまう傾向がでてきた。
- ⑤ 言葉づかいの注意はかなりの程度で安定しているが、子どもとの会話や家庭での協同の仕事は減少し始めている。

子どもにとっては、過度に構われないことがいい反面、父親が物をねだる時だけの存在になって、縁遠くなり始めている。

【母親】

- ① 朝起こすのは7割、風呂にはいるときの着替えの用意は4割、部屋の片づけは2割ぐらいに定着している。ただ、学校に出かける時の持ち物の注意は増加を続け、高学年にまで及んでいる。
- ② テレビの内容についての注意は減少しつつあるが、高学年まで注意し続ける傾向が現れてきた。また、遊びの内容の注意は全体としては増加しているが、高学年で減ってきている。
- ③ 勉強を見てやることはやや減ってきているが、かわりに高学年まで「勉強は」と督促する傾向が見えてきた。
- ④ 小遣いを月額で与える割合が減って、物を買って与えることが増えつつある。
- ⑤ 子どもとの会話や一緒に家の仕事をする事については十分されている。手伝いも全体的にはますますさせる傾向になってきているが、高学年になると、手伝いをさせなくなっている。

子どもにとっては、母親とのつながりは相変わらず深く、構われ過ぎが定着している部分もある。ただ、高学年で家のことより勉強をさせられている兆しが随所にてきている。

これまでの過保護傾向は一部では改善されてきているように見えるが、かわりに父親の子どもへの関わりの後退と、母親による勉強や金銭面での生活の管理化が静かに進行しつつある。

(2) 親の意識

【父親】

- ① 学校行事などへの参加は相変わらず低迷しており、しつけに関する読書や講演、聴講、地域行事への参加は次第に消滅に向かっている。
- ② しつけの自信を持つ者は半分にまで減り続けて、しつけも甘くなく、よいモデルであるという自覚も持たなくなっている。
子どもにとって父親は離れているだけでなく、後ろ姿も見えなくなろうとしている。

【母親】

- ① 地域行事には参加しなくても学校行事には参加しようという気配が濃くなってきた。また、しつけに関する学びの機会を利用することにはますます消極的になっている。
- ② 甘いとは感じながらも日々の子どもの世話をかなりしているつもりだが、一方でしつけに自信がもてなくて、よいモデルだと思えなくなっている。
子どもには、いつまでも甘い世話好きな母親がそばにいてくれるという居心地の良さがあるが、親がついていてくれるという安心感は感じにくくなってきている。

(3) 養育意識

【父親】

- ① 比較による叱責はいまだに健在であるが、男らしさや女らしさといった注意は減り始めた。子どもに思いやりや健康を求めていることに変化はないが、その次には友人関係よりも積極性を求めるようになった。
- ② 挨拶や言葉づかい、友人関係のしつけが主になっていることは定着しているが、忍耐力よりも積極性への方向変換が次の選択肢として現れてきた。高学年になると学習意欲のしつけが増えて、また、ほめることもしなくなっている。
子どもに積極性を求める父親に対して、逆に子どもが親に求めているのは、ほめて自信を持たせてくれることなのである。その子どもの声が親には届いていない。

【母親】

- ① よその子やきょうだいを引き合いにした注意はかなり定着し、高学年にまで増え始めている。一方男女によるしつけは減少傾向にあるが、高学年で増えつつある。父親と同様に思いやりや健康の次に積極性を求めるようになってきた。
- ② 挨拶や言葉づかい、友人関係、忍耐力、健康というしつけの順位は安定している。積極性を望みながらも、目前のしつけは別という現状があるようである。ほめることも減ってきている。父親同様、高学年の学習意欲のしつけは増えている。
子どもは高学年になってくると自分らしさを出そうとするので、比べられることには反発するだけである。しかし親の養育意識をみていくと子どもの育ちが養育に組み込まれていないことを暗示している。

思いやりを基盤として友達と仲良く過ごしながら、積極性を発揮してほしいという願いがある一方、競争という陰のしつけが高学年になると見え隠れしている。

2. 親の養育は男の子と女の子で違いがあるか？

【父親】

- ① 男の子に対しては、遊びの内容やムダづかいの注意は相変わらず多いが、新たに勉強への注意や物を買って与えたり、社会の話をするが多くなってきた。
- ② 女の子に対しては、手伝いをよりさせる傾向が定着している。
- ③ 女の子に対してしつけが甘いという自覚は消えてきたようである。
- ④ どんな子に育ててほしいかという点では、男の子には積極性を、女の子には思いやりを望み続けている。ただ、言葉づかいの正しさを女の子だからと望むことはなくなっている。
- ⑤ 現在しつけについて気にかけていることは、男の子には積極性や忍耐力であり、望む子ども像と一致しているが、女の子には正しい言葉づかいであり、一致していない。

【母親】

- ① 男の子に対しては、持ち物の注意、着替えの用意など手間をかけ、遊びの内容の注意、勉強の督促をする割合が多い。
- ② 女の子に対しては、一緒に家事をしたり手伝いをさせたり、履物の注意や言葉の注意をすることも依然として多い。また、小遣いを月額で与えていた傾向がなくなっている。
- ③ 男の子に対して世話をしていると思っていることに変わりはない。ただ女の子に対してはしつけの自信を持っていたのに、それが失われつつある。
- ④ どんな子に育ててほしいかという点では、男の子には積極性を、女の子には女らしさや正しい言葉づかいなどを望み続けている。また、健康的な男の子、思いやりのある好かれる女の子という兆候が新しく増え始めた。
- ⑤ 現在しつけについて気にかけていることは、忍耐よく学習意欲のある男の子、言葉づかいなどきちんと生活習慣を身につけた女の子へのしつけである。男の子にはさらに積極的なしつけもプラスされようとしている。

男・女らしさをあからさまにいわなくても、親の思いの中には男らしさ、女らしさのイメージが潜んでいて、親の日常的な養育はさまざまな場面において男の子と女の子で微妙に違っている。ただ、意識面では、親と子どもの関係に同性であるとか異性であるといった性別からくる違いは薄れてきた。

3. 親の養育はどの程度一貫しているか？

しつけは日々のさまざまな養育行動の連続からなる。しつけの方向が揃っていなければ、子どもを混乱させるだけである。

【父親・母親】

- ① ムダづかいを注意している親は、一方で物を買って与えている。これは矛盾したしつけ行動である。
- ② 一緒に家のことをしている親ほど手伝いをさせている。ただ手伝いをさせるのではなく、して、見て、やらせる形は生きている。
- ③ 注意をする親はあれもこれも注意する傾向がある。しつけは注意することという

形式的な思いこみがあるようである。

- ④ 学校行事に参加する親は、地域行事にも参加している。
- ⑤ よその子やきょうだいを引き合いに注意する親は、さらに男らしさ・女らしさも持ち出している。わが子らしさという基準を持つことは至難のことである。
- ⑥ しつけが甘いと思っている親ほど手伝いをさせていない。明確な自覚になればいいのだが。
- ⑦ 父親では、ムダづかいの注意や挨拶の注意はしつけの甘さとは無関係である。しかし、母親では、ムダづかいの注意や挨拶の注意はしつけの甘さと関係がある。つまり、挨拶の注意をしない方が甘いと思っている一方で、ムダづかいの注意をする方が甘いと思っている。母親が持っているしつけの甘さについてのイメージは、混沌としている。
- ⑧ 父親は世話をしていると思っていなくてもしつけが甘いとは思っていないが、母親はしつけが甘いと思っている。父親と母親で世話の程度や頻度が異なるからであろう。

4. 母親には養育パターンがあるのか？

しつけのどこに心配りをしているかによって、養育はさまざまなバリエーションを示すはずである。

- ① 友達関係に重点を置く母親は、親友を知り、皆が持っていると言われると物を買って与えている。
- ② 生活習慣に重点を置く母親は、挨拶の注意をよくするし、手伝いをさせ、履物は子どもに揃えさせ、言葉の注意もしている。
- ③ 親子関係に重点を置く母親は、履物は親が揃えるが、一緒に家のことをし、子どもをほめてやり、社会のこともよく話す一方でしつけについての学習をし、地域行事にもよく参加している。
- ④ 行動の積極性を重点に置く母親は、子どもと遊び、学校行事によく参加している。ところが他方で風呂にはいるとき着替えの用意をしてやったり、履物は親が揃えた後、注意するといった世話が過ぎている。
- ⑤ 自己抑制に重点を置く母親は、遊びの内容やムダづかいを注意し、男女らしさをしつけている。また、親の方も地域行事によく参加している。
- ⑥ 学習意欲に重点を置く母親は、朝の起床の世話から始まり、学校に行くときの持ち物、遊びの内容、テレビ内容の注意をし、勉強への督促、勉強を見てやり、宿題忘れを注意、学習塾にやりながら、小遣いは必要時に与え、皆が持っている物を買って与え、よその子を引き合いに出し、男女らしさもしつけている。履物は、散らかっていても放置している。
- ⑦ 健康管理に重点を置く母親は、これといった特徴はないが、自分のしつけが甘いと思っている。しつけにメリハリがないことが甘く思ってしまうのであろう。

しつけの心配りは、大まかには養育に適切な形で反映されており、程度は別にして方向性については安心できる状況にあるといえる。ただ、学習意欲に重点を置く母親の過保護ぶりは際だっている。

5. 今後の課題

前回調査で指摘された選択的過保護の傾向は、依然として認められる。数字から見ると過保護の一部は沈静化してきたが、完全に定着してしまった過保護も多い。これを改善しようとするのは、すでに困難である。改善可能な課題は、負の方に振れている傾向である。親による養育の動向に現れた兆候をキーワードとして表せば、父親では、「点的養育」、母親では「囲い込み養育」となる。父親は子どもとのふれあいがますます点状になって、親としての存在が希薄になろうとしている。一方それに反して、母親は親業を一身に背負わされようとしている重圧から、子どもを育てるといふより管理しようという干渉へのシフトが見られる。育てなければという気負いが出てきている。

保護面が過ぎているという養育状況が固定化している中では、育成という面を強化することが子どもの育ちに残された道である。育成と管理は時として相反することになる。親による管理的干渉が進むことは、子どもの育ちを押しえ込むことにつながる。

育ちを促す方策にはいろいろなことがあるが、ここでいくつかのポイントを探ってみることにする。育てるには子どもをほめることである。ただほめるといっても簡単にできるものではない。どういう養育態度がほめることにつながっているのかを再確認することが大切である。また、子どもにとっては親の自信が安心感の源である。親が自信を持っていれば、子どもは育つことができる。どうすれば自信が持てるようになるのか、調査結果に潜むコツを次に引き出しておく。

6. 親はどのような養育をするとき、子どもをほめているのか？

子どもをほめるためには、それなりのお膳立てが必要である。ほめている親の養育から学ぶことができる。

【父親・母親】

- ① 遊び相手になってやり、一緒に家のことをよくして、社会の話をよくして、学校行事にも参加している親は、子どもをほめている。
- ② しかし、勉強の督促をしたり、物を買って与えたり、よその子を引き合いに出して注意する親は、ほめることができていない。

子どものありのままの姿を見て、一方では、広く視野を保っているとほめられるが、わが子だけのことを考えてしまうと欠点ばかりが目につきやすくなるようである。

7. 親はどのような養育をするとき、よいモデルであると自覚したり、しつけの自信を持つことができるのか？

よいモデルという自覚は養育の形として反映され顕在化するものであり、また、しつけの自信は養育の過程からにじみ出して獲得されるものである。そういった自信をもつ親に学ぶことにする。

【父親】

- ① 挨拶をよく注意し、よく遊び相手をし、勉強をよく見てやり、共によく家事をし、手伝いをさせ、よくほめ、社会の話もよくして、学校行事や地域行事にもよく参加する父親が、よいモデルだと思っている。もちろん、よその子を引き合いに出したり、男女らしさを持ち出すことはしないし、しつけは厳しいと思っている。

- ② 挨拶をよく注意し、親友を知り、遊びの内容を注意し、遊び相手をし、勉強を見て、宿題忘れを注意し、一緒に家のことをし、手伝いをさせ、履物は子どもに揃えさせ、言葉づかいを注意し、就寝時間を守らせ、ほめてやり、社会の話をし、学校行事や地域行事にも参加して、しつけの学習もする父親が、自信をもっている。

【母親】

- ① よく遊び相手をし、よくほめ、よく世話をし、よくしつけの学習をする母親が、良いモデルと思っている。
- ② よく遊び相手をし、よく一緒に家のことをし、手伝いをさせ、社会の話をよくしてやり、しつけの学習をし、よく地域行事に参加する親が、しつけの自信を持っている。さらに、男女らしさのしつけは全くしないし、勉強の督促、他の子を引き合いに出して注意するといったこともしていない。

子どもを育てるためには、まず親と子どもが生活や遊びを通じてよく知り合うことが大切である。次に子どもが育つことができるような仕掛けを作り、できなかったことを注意するよりもできたことをほめるしつけが求められる。しかし往々にしてその過程は緩慢であるために、先を急ごうとする効率重視の養育には組み込めない。時間のない父親は養育から撤収し、不安を抱いている母親は形式的な養育に閉じこもりがちになる。この育成上の負の傾向を転換させることが当面の課題となる。「あわてるな、子どもは急に育てない」、「叱るより、ほめる一言、育ちの素」といった合い言葉などによる養育の再確認活動が必要であろう。

資 料 編

平成8年度 家庭教育充実事業指導資料作成に関わる調査実施要項

1. 調査の趣旨

子供に対する保護者の具体的な関わり方（養育態度・行動）は、子供の意欲や自主性・耐性などパーソナリティの健全な発達に大きく関係しているといわれている。

このような観点から、保護者が子に対してどのように関わっているか（保護者の養育態度・行動）について、その実態を明らかにしていくことは、今後の望ましい家庭教育の在り方を探究していく上で極めて重要な問題である。

そのために、昭和55年度及び平成3年度に、小学生をもつ保護者に対する調査を実施し、その中で保護者の過保護・過干渉・放任という養育態度・行動の特徴が明らかになった。

前回の調査後、子供を取り巻く環境の変化として、平成4年から学校週5日制が導入され、家庭の果たすべき役割がますます重要視されている。このような中で保護者の養育の実態を調査することにより、今後の、家庭の教育力を高めるための取組みが明らかになると考えられる。

本年度は、前回・前々回と同趣旨で、小学生をもつ保護者の養育態度・行動についての調査を実施し、15年間における保護者の養育態度や行動の変化を比較検討するとともに、「子供が生き生きと育つ家庭の在り方」を探求し、今後の福岡県の家庭教育の充実に資するものとする。

2. 調査の実施者

福岡県立社会教育総合センター

3. 調査の対象及び人数

県内小学生の保護者 6,000人程度

4. 調査の時期

平成8年9月

5. 調査の方法

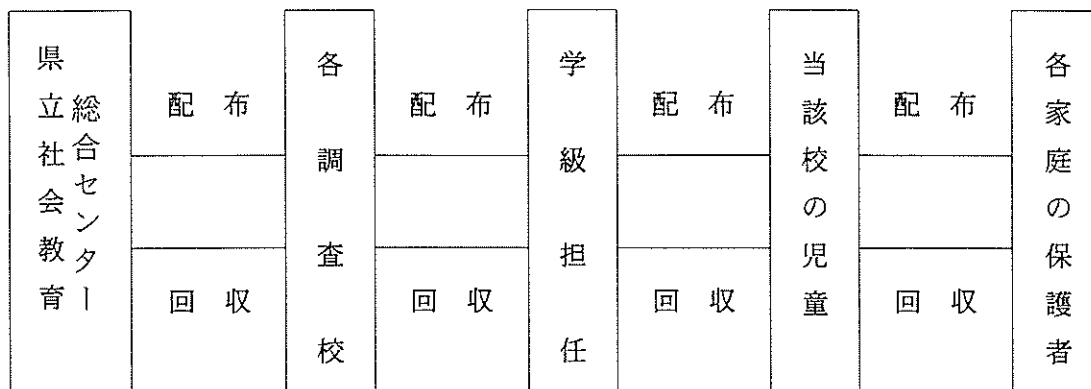
男性の保護者用、女性の保護者用の同一内容の、質問形式の調査票により行う。

(1) 調査票の配布

調査票は、県立社会教育総合センターが直接各調査校へ配布し、当該校の児童を通して各家庭の保護者に配布する。

(2) 調査票の回収

調査票は、各家庭の保護者から当該校の児童を通して、各調査校ごとに取りまとめ、県立社会教育総合センターが回収する。



6. 調査票

調査票は男性の保護者オレンジ色、女性の保護者を水色とする。(別紙)

7. 調査結果の処理

調査結果を家庭教育指導資料としてまとめ、調査校・関係機関及び関係団体等に配布する。

調査協力校名

学 校 名	学 校 名
福岡市立有田小学校	黒木町立木屋小学校
久留米市立青峰小学校	二丈町立深江小学校
大野城市立大野南小学校	〃 福吉小学校
福岡市立冷泉小学校	稲築町立稲築東小学校
〃 奈良屋小学校	方城町立伊方小学校
飯塚市立飯塚小学校	
北九州市立枝光小学校	
星野村立星野小学校	
〃 仁田原小学校	
〃 椋谷小学校	
〃 小野小学校	
大島村立大島小学校	計 19校
大刀洗町立大堰小学校	
〃 大刀洗小学校	

小学生のしつけ(養育態度・行動)についてのアンケート

名前を記入する必要はありません

◎ 記入の仕方についてのお願い

1. この調査用紙を持って帰られたお子さんについてお答えください。
2. この用紙は男性の保護者がお答えください。
3. 各質問に対するお答えは、回答項目のうち、最もあてはまるものの番号（1. 2. 3など）を○でかこんでお答えください。
4. 次の欄に必要事項を御記入くださるようお願いいたします。

お子さんの学年	お子さんの性別	御記入くださった方 (お子さんとの関係)	御記入くださった方の年齢	
_____年	1. 男	1. 父親	1. 25未満	2. 25～29
		2. 伯父・叔父	3. 30～34	4. 35～39
	3. 祖父	5. 40～44	6. 45～49	
	2. 女	4. 兄	7. 50～54	8. 55～59
		5. その他	9. 60以上	

1. あなたは、今朝お子さんを起こしましたか。
 1. はい
 2. いいえ
2. あなたは、今朝お子さんが学校に出かける前に、持ち物について注意しましたか。
 1. はい
 2. いいえ
3. あなたは、お子さんが「お風呂」に入るとき、着替えを用意してやりますか。
 1. よくある
 2. ときどきある
 3. ほとんどない
 4. 全くない
4. あなたは、昨日お子さんの部屋や机の上をかたづけてやりましたか。
 1. はい
 2. いいえ
5. あなたは、お子さんが近所の人や友人に会っても挨拶しなかったら、注意しますか。
 1. 必ず注意する
 2. ときどき注意する
 3. あまり注意しない
 4. 全く注意しない
6. あなたは、お子さんの最も親しい友達を知っていますか。
 1. 知っている
 2. 知らない
7. あなたは、お子さんの遊びの内容や遊び方について、いちいち注意することがありますか。
 1. よくある
 2. ときどきある
 3. ほとんどない
 4. 全くない
8. あなたは、お子さんが見ているテレビ番組を、内容によって注意することがありますか。
 1. よくある
 2. ときどきある
 3. ほとんどない
 4. 全くない
9. あなたは、お子さんが「みんながもっているから」と物を欲しがったとき、買ってやったことがありますか。
 1. よくある
 2. ときどきある
 3. ほとんどない
 4. 全くない

10. あなたは、お子さんの遊び相手をしてあげることがありますか。
1. よくある 2. ときどきある 3. ほとんどない
4. 全くない 5. その他 ()
11. あなたは、お子さんが遊んだりテレビを見たりしているとき、「勉強は済んだか」と注意することがありますか。
1. よくある 2. ときどきある 3. ほとんどない 4. 全くない
12. あなたは、お子さんの勉強をみてやることがありますか。
1. よくある 2. ときどきある 3. ほとんどない 4. 全くない
13. あなたは、お子さんを勉強のために学習塾にやっていますか。
1. はい 2. いいえ 3. その他 ()
14. あなたは、お子さんにおこづかいを、どのように与えていますか。
1. 一か月分まとめて 2. 毎日定額 3. 必要時に 4. 与えていない
5. その他 ()
15. あなたは、お子さんが、おこづかいで買った物について、ムダづかいを注意したことがありますか。
1. よくある 2. ときどきある 3. ほとんどない
4. 全くない 5. ムダづかいがない
16. あなたは、現在お子さんに何か決まったお手伝いをさせていますか。
1. はい 2. いいえ
17. あなたは、お子さんが宿題や手伝いを忘れていたら注意しますか。
1. 必ず注意する 2. ときどき注意する 3. あまり注意しない
4. 全く注意しない
18. あなたは、お子さんと一緒に家の仕事をすることがありますか。
1. よくある 2. ときどきある 3. ほとんどない 4. 全くない
19. あなたは、お子さんの寝る時刻を決めていますか。
1. はい 2. いいえ
20. あなたは、お子さんが玄関ではきものをそろえていないとき、どうされますか。
1. お子さんにそろえさせる 2. 自分でそろえた後、お子さんに注意する
3. 自分でそろえておく 4. そのままにしておく
5. その他 ()
21. あなたは、お子さんの言葉づかいについて注意することがありますか。
1. よくある 2. ときどきある 3. ほとんどない 4. 全くない
22. あなたは、学校で催される会合や行事に出席されることがありますか。
1. よくある 2. ときどきある 3. ほとんどない 4. 全くない
23. あなたは、お子さんをきょうだいやよその子を引き合いに出して、注意したり叱ったりすることがありますか。
1. よくある 2. ときどきある 3. ほとんどない 4. 全くない
24. あなたは、お子さんに対して男女の区別をする必要がないことでも「男の子だから、女の子だから」といって注意することがありますか。
1. よくある 2. ときどきある 3. ほとんどない 4. 全くない

デ ー タ 集

アンケート結果 父親

(単位：%)

問い	肢	1年	2年	3年	4年	5年	6年	男	女	父
1	1	24.6	23.3	21.3	18.0	20.9	17.3	19.9	22.0	20.9
	2	75.4	76.2	78.4	82.0	78.9	82.4	79.9	77.8	78.9
	NA	0.0	0.5	0.3	0.0	0.2	0.3	0.2	0.2	0.2
2	1	13.8	11.4	13.5	8.8	9.0	7.9	10.8	10.6	10.7
	2	86.0	88.3	86.3	91.2	90.5	91.9	88.9	89.3	89.1
	NA	0.2	0.3	0.2	0.0	0.5	0.2	0.3	0.1	0.2
3	1	1.0	1.7	1.3	1.2	0.7	0.5	1.4	0.7	1.1
	2	17.0	11.2	6.1	6.1	4.2	1.8	8.8	6.2	7.6
	3	34.4	30.1	30.6	24.9	21.1	16.2	28.1	23.8	26.1
	4	47.6	56.8	62.0	67.8	74.0	81.3	61.7	69.2	65.1
	NA	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.1	0.1
4	1	6.4	4.6	3.8	4.1	1.5	3.7	4.7	3.2	4.0
	2	93.1	94.9	96.0	95.9	98.0	96.1	95.1	96.4	95.7
	NA	0.5	0.5	0.2	0.0	0.5	0.2	0.2	0.4	0.3
5	1	49.4	43.2	43.6	41.7	40.3	42.6	43.0	43.8	43.4
	2	38.3	42.7	40.2	40.5	44.5	38.0	41.5	39.0	40.7
	3	10.1	10.0	11.9	13.4	10.8	15.3	11.8	12.0	11.9
	4	1.7	4.1	3.8	4.4	4.4	3.9	3.3	4.2	3.7
	NA	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	0.2	0.4	0.1	0.3
6	1	69.0	72.6	71.7	75.1	69.8	74.4	71.5	72.7	72.0
	2	31.0	27.2	28.1	24.9	30.0	25.6	28.4	27.2	27.8
	NA	0.0	0.2	0.2	0.0	0.2	0.0	0.1	0.1	0.2
7	1	4.4	3.9	5.2	2.9	3.3	3.7	4.9	2.7	3.9
	2	60.0	53.9	50.8	52.4	45.4	47.1	57.0	45.1	51.4
	3	28.5	32.8	36.0	36.6	41.2	36.5	30.1	41.3	35.4
	4	6.4	8.0	7.0	7.6	8.8	11.5	6.9	9.7	8.2
	NA	0.7	1.4	1.0	0.5	1.3	1.2	1.1	1.2	1.1
8	1	2.7	2.4	5.2	2.9	5.9	4.8	3.7	4.5	4.1
	2	37.6	37.9	39.8	39.3	40.3	38.3	38.6	39.2	38.9
	3	44.5	43.4	40.9	43.7	40.7	42.3	43.2	41.8	42.5
	4	14.2	14.4	13.0	13.4	11.6	13.4	13.1	13.4	13.3
	NA	1.0	1.9	1.1	0.7	1.5	1.2	1.4	1.1	1.2
9	1	4.7	4.1	4.7	5.4	3.1	3.9	4.4	4.2	4.3
	2	46.9	51.9	46.1	47.3	47.8	42.5	50.1	43.7	47.1
	3	39.1	34.2	36.6	35.9	36.6	42.5	35.0	40.2	37.5
	4	8.4	7.8	10.8	10.5	11.5	9.7	9.2	10.5	9.8
	NA	0.9	2.0	1.8	0.9	1.0	1.4	1.3	1.4	1.3
10	1	25.3	22.1	18.7	18.5	18.9	16.6	20.9	18.9	20.0
	2	65.1	64.3	70.6	65.6	60.4	56.4	65.9	61.2	63.7
	3	7.6	10.7	9.0	14.4	17.2	21.9	11.0	16.4	13.5
	4	0.7	0.7	0.2	1.0	2.4	3.2	0.9	2.0	1.4
	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1
	NA	1.3	2.2	1.5	0.5	0.9	1.7	1.2	1.4	1.3

(凡例：NA=無回答)

問い	肢	1年	2年	3年	4年	5年	6年	男	女	父
11	1	14.7	19.2	22.2	22.9	20.5	28.4	23.0	19.5	21.4
	2	49.1	56.1	57.3	55.9	55.1	48.5	54.5	52.8	53.7
	3	28.3	18.7	14.8	17.1	18.1	16.6	17.3	20.5	18.8
	4	6.9	4.4	4.5	3.7	5.3	5.3	4.1	6.0	5.0
	NA	1.0	1.6	1.2	0.4	1.0	1.2	1.1	1.2	1.1
12	1	7.1	7.8	5.4	8.0	6.6	6.7	7.4	6.3	6.9
	2	59.2	62.1	60.0	59.3	57.7	49.2	57.5	58.3	57.9
	3	26.3	23.3	29.4	26.6	27.5	35.3	28.4	27.8	28.2
	4	6.6	5.3	4.0	5.1	6.8	7.4	5.5	6.4	5.9
	NA	0.8	1.5	1.2	1.0	1.4	1.4	1.2	1.2	1.1
13	1	9.1	17.7	18.0	20.0	24.9	24.7	18.1	20.4	19.2
	2	87.7	76.7	76.9	75.1	70.5	69.5	77.0	74.7	75.9
	3	2.0	3.6	3.6	3.4	3.5	3.7	3.7	3.7	3.7
	NA	1.2	2.0	1.5	1.5	1.1	2.1	1.2	1.2	1.2
14	1	4.9	7.5	13.5	13.2	23.6	24.7	14.3	15.4	14.8
	2	0.7	5.3	4.3	4.4	2.2	3.0	3.5	3.2	3.3
	3	44.2	44.7	44.7	52.2	49.8	45.0	47.9	45.5	46.8
	4	44.5	35.2	31.2	24.9	19.4	18.7	28.2	29.4	28.7
	5	3.9	5.1	4.5	4.6	3.7	6.9	4.7	4.9	4.8
	NA	1.8	2.2	1.8	0.7	1.3	1.7	1.4	1.6	1.6
15	1	5.2	6.6	9.9	6.1	6.2	7.4	8.2	5.4	6.9
	2	34.9	43.2	38.9	45.9	43.2	38.1	44.2	36.7	40.7
	3	31.0	31.3	31.7	30.7	34.1	40.0	30.6	36.2	33.2
	4	16.5	9.2	9.7	8.5	8.8	9.0	8.8	11.9	10.2
	5	9.7	7.3	7.8	7.1	6.6	3.9	6.1	8.1	7.1
	NA	2.7	2.4	2.0	1.7	1.1	1.6	2.1	1.7	1.9
16	1	26.3	24.3	28.1	35.6	38.1	35.6	29.3	33.8	31.4
	2	72.7	74.0	70.6	63.7	60.6	62.1	69.3	64.8	67.2
	NA	1.0	1.7	1.3	0.7	1.3	2.3	1.4	1.4	1.4
17	1	25.3	23.5	27.2	26.1	29.5	24.2	27.2	24.7	26.0
	2	48.6	54.1	52.6	52.9	51.3	49.2	51.8	51.1	51.5
	3	21.4	16.7	15.3	16.8	12.6	21.2	16.1	18.5	17.3
	4	3.4	3.9	3.4	3.7	5.1	3.9	3.5	4.4	3.9
	NA	1.3	1.8	1.5	0.5	1.5	1.5	1.4	1.3	1.3
18	1	7.9	6.3	5.2	6.6	8.8	6.0	7.3	6.2	6.8
	2	46.9	46.8	53.7	53.9	55.3	52.9	52.2	51.1	51.7
	3	34.9	36.7	31.9	33.2	28.0	34.4	31.8	34.6	33.1
	4	7.4	8.3	7.0	4.9	5.9	5.3	6.9	6.0	6.4
	NA	2.9	1.9	2.2	1.4	2.0	1.4	1.8	2.1	2.0
19	1	61.7	59.5	53.7	55.9	46.5	43.2	52.8	53.6	53.2
	2	35.6	38.1	43.8	42.4	51.3	55.0	45.0	44.1	44.6
	NA	2.7	2.4	2.5	1.7	2.2	1.8	2.2	2.3	2.2

問い	肢	1年	2年	3年	4年	5年	6年	男	女	父
20	1	32.9	32.3	31.9	38.5	35.9	35.6	33.4	35.8	34.5
	2	9.3	11.7	13.3	11.2	12.6	13.9	12.1	11.9	12.0
	3	3.9	3.6	4.7	5.1	3.5	4.8	5.2	3.3	4.3
	4	47.7	47.1	44.0	40.5	43.2	41.6	44.7	43.2	44.0
	5	2.2	3.2	3.1	2.4	2.6	2.1	2.4	2.9	2.6
	NA	4.0	2.1	3.0	2.3	2.2	2.0	2.2	2.9	2.6
21	1	19.9	18.0	19.1	15.9	16.3	14.3	16.5	18.0	17.2
	2	56.5	60.0	57.8	62.9	57.5	57.7	60.2	56.9	58.7
	3	17.9	18.2	18.2	17.6	20.3	22.4	18.9	19.4	19.1
	4	2.9	1.9	2.7	2.2	4.0	3.9	2.4	3.6	3.0
	NA	2.8	1.9	2.2	1.4	1.9	1.7	2.0	2.1	2.0
22	1	11.8	14.6	12.8	16.1	13.2	14.3	14.3	13.2	13.8
	2	44.5	44.7	46.5	45.6	47.4	44.3	45.5	45.6	45.5
	3	29.5	28.2	29.2	27.3	27.3	29.6	28.3	28.8	28.5
	4	11.5	10.4	9.4	9.5	9.9	10.4	10.0	10.4	10.2
	NA	2.7	2.1	2.1	1.5	2.2	1.4	1.9	2.0	2.0
23	1	2.0	3.2	2.5	3.7	2.2	1.6	2.5	2.5	2.5
	2	31.2	34.0	28.8	30.7	26.0	32.6	32.2	28.5	30.5
	3	44.5	43.2	49.4	47.6	50.9	47.6	47.0	47.6	47.3
	4	19.7	17.7	16.9	16.3	18.5	16.4	16.2	19.1	17.6
	NA	2.6	1.9	2.4	1.7	2.4	1.8	2.1	2.3	2.1
24	1	3.7	4.4	4.9	3.7	2.6	5.3	4.2	4.0	4.1
	2	37.6	37.6	35.7	35.4	33.3	32.3	35.3	35.2	35.3
	3	41.5	41.3	40.9	41.5	43.4	45.3	42.6	42.1	42.3
	4	14.3	14.8	16.2	18.0	18.5	15.7	16.0	16.6	16.3
	NA	2.9	1.9	2.3	1.4	2.2	1.4	1.9	2.1	2.0
25	1	27.8	25.0	23.1	22.2	19.4	15.9	21.3	23.1	22.1
	2	65.6	67.0	66.3	70.7	69.6	70.4	70.2	66.2	68.3
	3	3.4	5.6	7.2	5.1	7.5	11.3	5.7	8.0	6.8
	4	0.5	0.5	1.1	0.5	1.3	0.9	0.9	0.7	0.8
	NA	2.7	1.9	2.3	1.5	2.2	1.5	1.9	2.0	2.0
26	1	8.4	5.1	8.3	8.5	10.1	7.2	9.1	6.7	8.0
	2	46.7	51.7	52.6	53.7	54.0	59.6	54.6	51.3	53.0
	3	34.9	35.0	31.9	31.2	29.3	27.5	29.3	34.1	31.6
	4	7.4	6.1	4.7	5.1	4.6	3.9	4.9	5.7	5.3
	NA	2.6	2.1	2.5	1.5	2.0	1.8	2.1	2.2	2.1
27	1	3.7	5.3	6.1	5.6	5.9	6.2	5.2	5.9	5.5
	2	47.9	45.6	42.2	47.8	44.9	48.7	46.1	46.2	46.2
	3	42.3	40.3	45.4	39.5	42.3	39.3	42.1	40.9	41.5
	4	2.9	6.1	4.0	4.9	4.6	4.2	4.5	4.4	4.5
	NA	3.2	2.7	2.3	2.2	2.3	1.6	2.1	2.6	2.3

問い	肢	1年	2年	3年	4年	5年	6年	男	女	父
28	1	2.2	4.1	1.3	2.4	2.4	0.7	2.4	2.0	2.2
	2	32.7	28.9	26.7	28.3	24.7	29.6	29.5	27.2	28.4
	3	52.6	51.0	56.6	51.2	54.6	49.4	52.2	53.0	52.6
	4	9.8	13.8	13.3	16.3	16.3	18.7	14.0	15.6	14.8
	NA	2.7	2.2	2.1	1.8	2.0	1.6	1.9	2.2	2.0
29	1	6.9	6.1	6.1	5.9	7.3	6.5	5.3	7.7	6.4
	2	53.3	58.0	58.2	55.4	55.5	54.7	55.2	56.6	55.9
	3	36.4	31.3	28.1	32.9	31.7	33.5	33.3	31.1	32.3
	4	2.7	3.4	6.0	4.3	4.4	3.7	4.9	3.3	4.1
	NA	0.7	1.2	1.6	1.5	1.1	1.6	1.3	1.3	1.3
30	1	1.0	0.7	1.8	1.0	0.7	2.1	1.5	0.9	1.2
	2	15.0	19.2	17.3	15.6	21.8	19.2	18.5	17.6	18.1
	3	52.3	48.1	50.3	53.2	49.3	49.2	51.0	49.7	50.3
	4	31.0	31.1	29.2	29.5	27.1	28.6	27.8	31.1	29.4
	NA	0.7	0.9	1.4	0.7	1.1	0.9	1.2	0.7	1.0
31	1	2.0	3.6	4.0	3.4	1.3	3.7	2.6	3.5	3.0
	2	35.6	33.3	37.8	40.0	40.5	39.0	39.8	35.4	37.8
	3	53.3	54.9	51.0	46.6	50.0	48.3	48.2	53.4	50.6
	4	7.6	6.1	5.4	6.8	6.4	7.4	6.8	6.3	6.6
	NA	1.5	2.1	1.8	3.2	1.8	1.6	2.6	1.4	2.0
32	1	20.9	22.3	22.0	22.7	22.7	24.2	21.3	23.9	22.5
	2	43.0	46.6	42.5	44.4	44.5	41.8	45.8	41.5	43.8
	3	22.9	18.4	22.9	21.0	17.6	21.2	20.8	20.5	20.7
	4	12.8	11.4	11.5	11.0	13.9	11.3	10.8	13.4	12.0
	NA	0.4	1.3	1.1	0.9	1.3	1.5	1.3	0.7	1.0
33	1	21.0	19.9	19.2	18.9	18.3	17.8	18.4	20.0	19.1
	2	22.8	22.7	21.6	20.9	22.9	20.1	20.6	23.4	21.7
	3	8.0	7.4	6.9	6.7	6.6	6.2	6.6	7.3	7.0
	4	12.7	13.8	11.9	14.7	14.8	14.2	14.5	12.7	13.7
	5	12.7	13.2	13.4	11.8	12.2	11.4	14.1	10.6	12.5
	6	6.1	7.0	10.3	11.1	8.8	12.7	10.1	8.5	9.4
	7	13.3	12.7	12.2	11.6	11.9	12.1	11.2	13.6	12.3
	8	1.5	1.4	2.5	2.6	2.2	3.2	2.5	1.9	2.2
	9	0.6	0.6	0.9	0.8	0.5	0.4	0.7	0.6	0.7
	10	1.3	1.3	1.1	0.9	1.8	1.9	1.3	1.4	1.4
34	1	12.5	11.4	12.2	12.0	12.1	9.8	11.3	12.0	11.6
	2	11.2	9.2	11.2	10.1	11.4	11.1	10.4	11.1	10.7
	3	21.4	20.2	19.5	21.5	21.3	21.0	19.2	22.5	20.8
	4	12.4	12.3	12.7	13.1	12.7	13.0	14.4	10.7	12.7
	5	5.4	5.8	5.7	6.5	6.1	6.2	7.1	4.7	6.0
	6	1.3	1.5	2.6	1.4	2.2	2.6	2.4	1.5	1.9
	7	17.4	19.0	16.9	17.3	16.9	16.7	18.0	16.7	17.4
	8	8.4	8.2	8.2	7.7	7.3	8.2	7.9	8.1	8.0
	9	9.5	11.6	10.6	9.9	9.8	11.1	8.9	12.1	10.4
	10	0.5	0.8	0.4	0.5	0.2	0.3	0.4	0.6	0.5

アンケート結果 母親

(単位：%)

問い	肢	1年	2年	3年	4年	5年	6年	男	女	母
1	1	71.2	65.6	71.4	66.8	69.8	67.3	69.7	68.0	68.8
	2	28.6	33.9	28.2	32.8	29.8	32.5	30.0	31.8	30.9
	NA	0.2	0.5	0.4	0.4	0.4	0.2	0.3	0.2	0.3
2	1	75.7	77.1	71.5	61.4	60.8	51.2	70.0	62.3	66.0
	2	24.3	22.2	27.9	38.2	38.6	48.4	29.4	37.4	33.6
	NA	0.0	0.7	0.6	0.4	0.6	0.4	0.6	0.3	0.4
3	1	41.8	32.8	26.3	17.8	16.0	10.7	26.8	21.1	23.8
	2	23.1	24.0	19.0	18.7	19.9	12.6	20.1	18.8	19.4
	3	19.2	25.9	25.1	27.0	22.4	21.3	22.8	24.1	23.5
	4	15.9	17.1	29.4	36.3	41.7	55.4	30.2	36.0	33.2
	NA	0.0	0.2	0.2	0.2	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1
4	1	30.3	21.1	24.1	15.9	17.5	15.6	23.5	18.1	20.7
	2	69.3	78.7	75.5	84.1	82.1	84.4	76.3	81.7	79.1
	NA	0.4	0.2	0.4	0.0	0.4	0.0	0.2	0.2	0.2
5	1	66.1	63.9	64.6	61.5	61.4	61.9	62.7	63.7	63.2
	2	32.1	32.4	32.8	34.3	34.1	31.6	33.5	32.4	32.9
	3	1.8	3.1	2.4	3.6	3.7	4.9	3.4	3.1	3.3
	4	0.0	0.2	0.2	0.4	0.6	1.4	0.3	0.7	0.5
	NA	0.0	0.4	0.0	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1
6	1	93.8	93.5	94.5	92.7	93.8	94.1	92.4	95.0	93.8
	2	6.0	5.9	4.9	6.9	6.2	5.9	7.2	4.8	5.9
	NA	0.2	0.6	0.6	0.4	0.0	0.0	0.4	0.2	0.3
7	1	5.5	4.5	5.5	3.4	3.1	4.9	6.2	2.9	4.5
	2	62.6	65.3	58.1	59.9	56.6	51.4	66.3	51.9	58.8
	3	28.1	25.8	32.2	32.2	33.3	34.8	24.0	37.9	31.3
	4	1.8	3.1	2.6	4.1	6.2	7.3	2.6	5.8	4.1
	NA	2.0	1.3	1.6	0.4	0.8	1.6	0.9	1.5	1.3
8	1	3.1	3.8	3.6	1.9	4.3	3.6	3.6	3.3	3.4
	2	41.7	45.2	48.2	45.8	42.5	46.4	43.7	46.2	45.0
	3	44.1	39.3	38.7	42.8	44.1	35.8	42.5	39.3	40.8
	4	9.3	9.9	7.3	8.6	8.4	11.9	8.7	9.7	9.2
	NA	1.8	1.8	2.2	0.9	0.7	2.3	1.5	1.5	1.6
9	1	3.1	2.7	3.4	2.8	1.6	2.0	3.4	1.8	2.6
	2	49.3	51.5	49.0	48.8	48.0	46.2	49.2	48.4	48.8
	3	41.2	39.3	38.7	39.4	41.6	41.7	40.0	40.6	40.3
	4	4.6	5.2	7.1	8.4	7.8	7.9	6.2	7.5	6.9
	NA	1.8	1.3	1.8	0.6	1.0	2.2	1.2	1.7	1.4
10	1	15.0	11.0	9.7	8.6	6.4	6.7	9.0	9.8	9.5
	2	69.3	67.3	70.9	66.2	60.5	52.6	62.7	66.0	64.4
	3	12.8	19.3	16.6	22.1	30.3	33.2	24.8	20.6	22.6
	4	0.7	0.4	0.6	1.5	1.2	4.3	1.5	1.4	1.5
	5	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	1.0	0.4	0.3	0.3
	NA	2.0	1.8	2.0	1.4	1.4	2.2	1.6	1.9	1.7

問い	肢	1年	2年	3年	4年	5年	6年	男	女	母
11	1	33.4	39.8	43.1	40.6	38.3	32.3	42.8	33.5	37.9
	2	50.3	51.8	47.8	51.0	50.0	53.4	47.5	53.6	50.7
	3	13.7	5.8	6.3	6.2	8.8	9.7	7.4	9.3	8.4
	4	1.1	1.3	1.0	0.9	1.6	2.8	0.9	2.0	1.5
	NA	1.5	1.3	1.8	1.3	1.3	1.8	1.4	1.6	1.5
12	1	44.9	28.6	25.7	23.8	14.8	10.0	26.1	22.5	24.2
	2	48.1	63.9	60.4	61.5	62.1	56.9	58.2	59.6	58.9
	3	5.5	5.8	11.1	12.8	19.8	27.4	13.0	15.0	14.0
	4	0.0	0.4	1.0	0.9	2.1	4.1	1.4	1.5	1.5
	NA	1.5	1.3	1.8	1.0	1.2	1.6	1.3	1.4	1.4
13	1	8.0	13.7	16.4	18.3	23.8	26.0	17.9	18.0	17.9
	2	87.8	79.1	78.2	77.8	70.6	68.0	77.7	75.9	76.8
	3	2.7	5.6	3.4	2.6	4.3	4.5	3.1	4.4	3.8
	NA	1.5	1.6	2.0	1.3	1.3	1.5	1.3	1.7	1.5
14	1	5.3	7.9	17.6	19.9	30.5	33.6	18.5	20.5	19.6
	2	3.3	6.3	5.9	5.1	4.1	3.4	5.5	3.9	4.7
	3	52.5	57.1	53.1	56.0	49.8	47.2	52.3	52.8	52.5
	4	32.8	21.8	16.4	11.3	8.6	6.7	15.4	16.4	15.9
	5	4.6	5.6	5.0	6.4	6.1	7.3	6.9	4.9	5.8
	NA	1.5	1.3	2.0	1.3	0.9	1.8	1.4	1.5	1.5
15	1	7.7	9.2	8.1	6.9	9.6	6.5	9.6	6.5	8.0
	2	39.6	44.8	50.7	56.2	50.2	57.3	52.5	47.7	50.0
	3	26.8	28.1	22.9	23.2	25.7	24.3	23.9	26.2	25.1
	4	8.4	4.9	4.2	3.6	3.7	3.0	4.4	4.8	4.6
	5	12.6	9.4	11.3	8.6	9.4	6.9	7.0	12.1	9.7
	NA	4.9	3.6	2.8	1.5	1.4	2.0	2.6	2.7	2.6
16	1	45.7	43.5	50.7	55.1	53.0	53.8	47.0	53.6	50.5
	2	52.3	54.7	47.7	43.4	45.4	44.6	51.3	44.8	47.9
	NA	2.0	1.8	1.6	1.5	1.6	1.6	1.7	1.6	1.6
17	1	59.5	53.8	54.4	50.1	48.3	42.1	53.7	49.1	51.3
	2	36.1	40.5	39.9	43.9	44.8	48.2	40.6	43.9	42.4
	3	2.2	4.1	4.0	4.3	5.1	7.3	4.0	5.0	4.5
	4	0.2	0.0	0.2	0.4	0.4	0.8	0.2	0.5	0.3
	NA	2.0	1.6	1.5	1.3	1.4	1.6	1.5	1.5	1.5
18	1	16.6	13.9	19.8	17.3	16.4	15.2	13.8	19.1	16.6
	2	67.1	67.0	60.1	62.4	62.7	66.4	62.7	65.6	64.2
	3	12.4	14.2	16.0	16.0	17.2	15.4	18.8	12.0	15.3
	4	0.4	1.3	1.2	0.9	0.2	0.8	1.2	0.5	0.8
	NA	3.5	3.6	2.9	3.4	3.5	2.2	3.5	2.8	3.1
19	1	79.7	74.8	68.8	68.9	52.5	50.9	66.5	64.6	65.5
	2	17.0	21.6	27.8	27.7	43.0	46.7	30.0	32.2	31.1
	NA	3.3	3.6	3.4	3.4	4.5	2.4	3.5	3.2	3.4

問い	肢	1年	2年	3年	4年	5年	6年	男	女	母
20	1	42.1	41.5	38.7	43.2	38.3	39.4	36.3	44.2	40.4
	2	31.6	28.9	31.9	29.7	32.2	36.2	33.0	30.9	31.9
	3	10.4	9.4	10.3	9.4	8.0	8.3	10.4	8.3	9.3
	4	9.5	12.6	11.3	11.1	13.7	12.1	13.1	10.5	11.8
	5	2.4	4.0	3.8	2.6	3.9	2.0	3.6	2.7	3.1
	NA	4.0	3.6	4.0	4.0	3.9	2.0	3.6	3.4	3.5
21	1	28.1	24.5	27.3	25.8	26.4	24.8	24.1	28.1	26.2
	2	57.3	61.8	59.7	58.8	57.6	60.1	59.2	59.1	59.2
	3	10.0	9.7	9.3	10.5	11.5	11.9	11.9	9.2	10.5
	4	1.1	1.1	0.6	1.5	0.8	1.4	1.5	0.7	1.1
	NA	3.5	2.9	3.1	3.4	3.7	1.8	3.3	2.9	3.0
22	1	57.3	54.6	56.3	50.1	52.0	52.1	54.4	53.1	53.7
	2	34.7	37.5	33.8	40.1	37.5	37.4	36.4	37.3	36.9
	3	3.3	4.3	5.9	6.0	6.8	7.1	5.4	5.9	5.6
	4	0.7	0.2	1.0	0.4	0.2	1.4	0.7	0.6	0.7
	NA	4.0	3.4	3.0	3.4	3.5	2.0	3.1	3.1	3.1
23	1	6.6	4.9	5.5	5.8	5.7	6.1	6.6	5.1	5.8
	2	49.0	56.3	53.4	49.8	52.7	50.3	51.4	52.3	51.9
	3	35.4	30.1	31.4	35.4	30.9	32.5	32.7	32.5	32.6
	4	5.5	5.6	6.5	5.8	7.4	8.7	6.0	7.2	6.6
	NA	3.5	3.1	3.2	3.2	3.3	2.4	3.3	2.9	3.1
24	1	3.1	2.7	3.0	2.8	5.9	3.8	2.7	4.4	3.6
	2	32.7	38.0	32.6	34.5	35.7	38.8	33.6	37.1	35.4
	3	45.7	43.6	47.0	46.7	40.8	44.1	46.1	43.2	44.6
	4	15.0	12.4	14.2	12.4	14.3	11.3	14.2	12.4	13.3
	NA	3.5	3.3	3.2	3.6	3.3	2.0	3.4	2.9	3.1
25	1	37.8	32.6	32.2	27.9	25.6	23.4	28.4	31.1	29.8
	2	58.2	61.1	62.8	64.4	68.0	70.8	65.1	63.8	64.4
	3	0.7	2.9	1.4	4.1	2.7	3.8	3.1	2.1	2.6
	4	0.0	0.0	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1
	NA	3.3	3.4	3.4	3.4	3.5	1.8	3.3	2.8	3.1
26	1	15.9	13.0	16.2	16.3	18.9	16.4	15.7	16.6	16.2
	2	59.5	63.9	63.2	64.7	61.9	65.1	63.1	63.0	63.1
	3	19.7	19.3	16.0	13.9	14.3	15.6	16.7	16.1	16.4
	4	1.1	0.9	0.8	1.7	1.4	1.4	1.2	1.3	1.2
	NA	3.8	2.9	3.8	3.4	3.5	1.5	3.3	3.0	3.1
27	1	1.3	1.1	2.6	1.5	2.5	3.0	1.7	2.3	2.1
	2	38.7	39.1	42.3	41.4	41.6	45.7	40.3	42.7	41.6
	3	53.8	54.8	48.8	49.0	49.1	46.7	51.2	49.4	50.2
	4	2.7	1.6	3.0	4.7	3.5	2.8	3.4	2.7	3.1
	NA	3.5	3.4	3.3	3.4	3.3	1.8	3.4	2.9	3.0

問い	肢	1年	2年	3年	4年	5年	6年	男	女	母
28	1	8.4	8.3	6.7	7.9	5.5	6.5	8.2	6.2	7.2
	2	61.8	61.4	57.7	51.7	54.1	45.9	57.1	53.7	55.3
	3	26.3	26.1	31.2	36.1	34.4	43.0	30.3	35.5	33.0
	4	0.2	1.3	1.0	0.9	2.7	2.8	1.2	1.9	1.5
	NA	3.3	2.9	3.4	3.4	3.3	1.8	3.2	2.7	3.0
29	1	4.4	2.5	3.6	2.1	2.9	2.4	3.1	2.9	3.0
	2	39.1	52.9	46.4	48.7	52.2	49.7	49.9	46.8	48.3
	3	53.2	41.7	46.0	45.1	39.6	42.1	44.0	44.9	44.5
	4	2.4	1.8	2.8	2.6	3.7	3.8	2.1	3.6	2.8
	NA	0.9	1.1	1.2	1.5	1.6	2.0	0.9	1.8	1.4
30	1	8.4	6.5	7.1	6.7	7.4	8.7	7.5	7.5	7.5
	2	47.1	45.3	48.4	48.5	47.6	43.9	47.1	46.6	46.8
	3	37.0	39.0	36.0	34.8	36.3	36.5	37.1	36.1	36.3
	4	6.4	7.9	7.3	8.2	7.4	8.9	7.1	8.2	7.7
	NA	1.1	1.3	1.2	1.8	1.3	2.0	1.2	1.6	1.4
31	1	0.9	1.1	0.6	0.2	1.6	1.0	0.7	1.1	0.9
	2	38.5	37.5	40.3	36.7	38.6	41.5	39.4	38.4	38.9
	3	56.0	58.3	54.0	57.1	54.8	52.9	55.8	55.1	55.4
	4	3.3	1.3	2.8	4.3	3.3	2.2	2.4	3.4	2.9
	NA	1.3	1.8	2.3	1.7	1.7	2.4	1.7	2.0	1.9
32	1	28.5	31.5	27.3	29.4	30.0	34.8	30.0	30.5	30.3
	2	57.0	53.8	57.8	54.3	51.3	49.3	55.3	52.6	53.9
	3	10.6	11.2	10.7	12.9	12.9	10.7	11.2	11.8	11.5
	4	2.6	2.2	2.8	1.7	4.5	2.8	2.3	3.3	2.8
	NA	1.3	1.3	1.4	1.7	1.3	2.4	1.2	1.8	1.5
33	1	21.3	19.6	18.9	19.3	19.6	17.9	18.4	20.3	19.4
	2	25.2	25.4	22.0	23.0	21.9	22.9	22.2	25.4	23.3
	3	7.0	5.7	6.6	5.7	6.5	5.1	5.5	6.7	6.1
	4	9.6	10.2	10.7	11.3	10.2	11.5	11.7	9.5	10.6
	5	13.5	13.8	13.5	12.4	13.8	11.6	13.9	11.5	13.1
	6	9.0	9.3	13.2	12.1	12.7	12.7	12.3	10.9	11.6
	7	11.0	13.7	10.8	11.6	11.4	13.5	11.9	12.0	12.0
	8	2.3	1.6	3.0	3.1	2.9	3.7	3.1	2.6	2.8
	9	1.0	0.5	0.8	0.9	0.4	0.3	0.6	0.6	0.6
	10	0.1	0.2	0.5	0.6	0.6	0.8	0.4	0.5	0.5
34	1	14.2	12.8	10.0	10.8	10.7	10.7	11.6	11.3	11.5
	2	10.6	9.5	10.5	10.8	10.5	11.3	9.4	11.6	10.5
	3	20.9	23.9	22.3	23.0	24.2	23.5	22.0	24.0	23.1
	4	12.2	10.5	14.7	12.9	13.9	14.0	14.8	11.5	13.1
	5	6.2	6.7	6.7	7.5	6.4	6.3	7.6	5.7	6.6
	6	1.3	1.2	2.0	1.9	2.3	1.2	1.7	1.6	1.6
	7	17.2	18.5	15.1	16.1	15.4	15.7	17.3	15.4	16.3
	8	6.7	5.7	7.5	6.5	5.9	7.2	5.6	7.5	6.6
	9	9.9	10.8	10.7	10.2	10.6	9.7	9.6	11.0	10.3
	10	0.8	0.4	0.5	0.3	0.1	0.4	0.4	0.4	0.4

平成 8 年度
家庭教育充実事業報告書
平成 9 年 3 月発行

福岡県立社会教育総合センター
福岡県糟屋郡篠栗町大字金出3350-2
☎ (092) 947-3512 (事業課)
FAX (092) 947-8029